明治四十三年四月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百四十五號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

婦人衛生雜誌

第二百四拾五號目次

講演

○月經の話　　醫學士　河島右一

叢談

○年寄にならぬ工夫
○不妊症及其の治療(承前)
○美容法(承前)

育兒

○小兒の可愛さ
○誤つた家庭教育
○乳媼の選擇

家庭衛生

○姙婦の養生法
○疼痛の手當
○長命法(承前)

質疑

○顏面のフキデモノに就て○便秘に就て

雜報

○種痘法○救護所○衛生試驗所○猩紅熱○藥違ひ

西洋雜俎

○犬の負傷者搜索○早生兒の運命○無痛分娩法

大日本婦人衛生會記事

○本會役員會○本會入會者○山形支會入會者○轉居

大日本婦人衛生會

總會及懇親會豫告

本會の總會及び懇親會は本月下旬を以て開催致すべく豫告致置候處都合上來月に繰延ること丶相成候間此段御了承相成度會員各位に稟告仕候。

追て會場及び時日等は決定の上御報申上候。

四月例會は例に依りて休會致候事。

明治四十三年四月

私立大日本婦人衛生會

誄詞

あはれ〳〵、正二位勳一等岩倉具定公はや、花も未しきに、頓にも薨去りましぬ、公の御功はさることにて、史人等が世々に傳へまつるべきごころ、實や公はまた本會總裁宮妃殿下御父君にわたらせ玉ひぬるを、宮の御嘆の程もれ承るだにかしこし、忍びまつらむもなか〳〵なりや、本會員たらむもの誰か悼まざらむ、かしこみ、かしこみもしぬびごごをへまつるになも。

明治四十三年四月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗槪を敍べて廣く江湖の諸姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とする其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　總會は例會總會々評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑託し會員をして聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々塲に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算竝に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後に員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會は支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件　第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を繳册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢く會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木鏻子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敎子
同　石川貞子
評議員　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　服部繁子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
評議員　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　中濱芳子
同　山口貞子
同　子爵夫人　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別贊成員

（いろは順）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　石川千代松君
醫學士　石原久君
醫學士　石原喜久太郎君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
ドクトル　伊澤信平君
醫學博士　伊東祐彥君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學博士　石津利作君
醫學士　磐瀨雄一君
長谷川泰君
法學博士　鳩山和夫君
荻原彌四郎君
醫學博士　林春雄君
原胤昭君
醫學士　橋本左武郎君
醫學博士　濱田玄達君
男爵　濱尾新君
醫學博士　芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル　西山信光君
本田增次郎君
醫學士　鳥居春洋君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大野豐太君
醫學士　大西秀治君
子爵　小笠原長生君
ドクトル　小此木信六郎君
醫學博士　岡山榮吉君
醫學博士　岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士　緒方正規君
醫學博士　大澤岳太郎君
醫學士　渡邊房吉君
醫學博士　加藤照麿君
法學博士文學博士男爵　加藤弘之君
醫學士　河野衛君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　賀古鶴所君
醫學士　堅田龜一郎君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　甲野棐君
醫學士　米山彥郎君
橫井忠國君
醫學博士　高橋順太郎君
男爵　高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士　高田畊安君
ドクトル　高山紀齋君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　田代義德君
醫學士　田村光嗣君
醫學士　田村化三郎君
醫學士　竹中成憲君
藥學博士　丹波敬三君
法學博士　高木豐三君
醫學博士、男爵　高木兼寛君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　土田卯三郎君
男爵　辻新次君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學博士　長與稱吉君
藥學博士　長井長義君
男爵　南部甕男君
醫學博士　能勢靜太君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　栗本庸勝君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　吳秀三君
醫學博士　山田鐵造君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
ドクトル　山上兼輔君
ドクトル　松山陽太郎君
ドクトル　丸山長四郎君
富士川游君
布施正顯君
男爵　後藤新平君
醫學士　古川榮君
小高眞造君
小西信八君
醫學士　寺田誠尾君
醫學士　寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士　朝倉文三君
子爵　秋元興朝君
足立寛君
ドクトル　朝山義六君
醫學士　淺田決君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學博士　榊順二郎君
醫學博士　榊保三郎君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　佐藤三吉君
齋藤淸文君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐藤運雄君
醫學士　佐藤德齋君
醫學士　澤崎寬制君
ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　木下正中君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學博士　木村德衛君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學士　北村橘造君
醫學博士　北川乙治郎君
ドクトル　菊池循一君
醫學博士　三輪信太郎君
醫學博士　宮本叔君
醫學博士　宮本仲君
醫學博士　宮川保全君
理學博士　箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三浦謹之助君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三浦守治君
島田三郎君
ドクトル　志村誠麿君
醫學博士　島村俊一君
ドクトル　日高昂君
醫學博士　弘田長君
伯爵　土方久元君
醫學士　百瀨玄溪君
醫學士　森田正馬君
醫學博士文學博士　森林太郎君
醫學士　澁川德君
ドクトル　須田卓爾君

講演

月經の話

醫學士　河島右一

今日は會長鍋島侯爵夫人を初めとして、多數の貴夫人淑女方が御出席になりました、此盛大なる集會に於きまして、一場の講演を致すといふことは私の無上の光榮と致す所でございます。

就きまして幹事の方々から何か時候に關した養生法に就て話すやうにといふ御注文でありました、ところで唯時候に關するといふことに致しまするといふと、極く簡單のものになりまして、折角寒中を御厭ひなく御出席になりました方々の御利益にもなるまいと思ひますから、特に御婦人の最も大切になさらなければならぬ『月經』といふ題を選びまして、お話を致すことにした次第であります。就きまして皆樣に御斷りを申して置かなければならないのは、私は産科婦人科を專門にして居る者でございますが、特に此問題も私の專門に關する『月經』といふ題でありますので、此講演中に或は御耳障りになる學語も使はなければならない場合があるかも知れませぬ、それは私も出來得る限り避ける積りではありますが、萬一さう云ふことがありましたら其節は御容赦をなすつて戴きたいと存じます。

本題の『月經』といふことは御婦人方に取つて最も必要なる、又重要なる問題の一つになつて居ります。男子と女子とは其區別がいろ〳〵ありまして、各方面から論じまするると、方面々々に依て男女の區別を皆主張して居ります、私の專門の方から是を論じまするると、男子と女子との區別は主に月經にあるとい

ふことに歸するのであります、此大切なる月經の養生法、又是に對する智識の缺乏、不養生といふことは延いて各個人に對する疾患を惹起すのみならず、終生御婦人方の幸不幸を來す基となるのであります。であるから月經といふことに付て十分なる注意を以て―愼重の態度を以て御研究になることは必要缺くべからざることゝ存じます、就きまして月經の參りまする一番初めにはどういふ風に來るか、此は屢ゝ問題となる事であります、此初經の參ります時期は寒帶、溫帶、熱帶等に依て異つて居ります、寒帶地方に住んで居る方々の月經は比較的遲く來るのであります、熱帶地方に居る方々の月經は大抵早く來るのが普通になつて居ります、さうして生活狀態にも關係するので、田舍の樣な極く閑靜な土地に住んで居る人は月經が遲く來るのであります、都會のやうな極めて繁華な刺戟の澤山ある處に住んで居る方々は速く來るのであります、又日本人と西洋人とは何う云ふ風に來るか、日本人は比較的遲く西洋人は比較的速いのであります、斯く國々に依て其の趣を異にして居るのであります、併し平均どの位の年齡に來るのが普通であるかといふに、大抵は十六年四ヶ月といふことになつて居ります。さうして其月經の續きまする期間は一生の間にどの位來るものであるかと云ふと大抵三十年間參ります、十六年四ヶ月で來ますから四十六七の頃に終ることになつて居ります、さうして其來まする順序はどう云ふ風にして來るかといふと、四週間目に一遍繰返さるゝのであります、さうしてそれが毎月々々來る人もあるし、毎月來ない一ヶ月おき、二ヶ月おきとか云ふ風に飛んで來る事もあります、速くなつたり又遲くなつて來ることもあります、それで量はどうであるかと申しますと量は計ることは難いけれども、先づ一般の學者の統計から算出して行きますと百五十瓦乃至二百五十瓦の血量が出て來ることになつて居ります、で此場合には何か症狀があるか、何ともなくて來るものであるか、何か支障があるかないかとい

ふと、極く理想的の婦人であり又は健康な總ての機關も完全に備はつて居る人は何ともなく來るものである、殆ど月經の來るかどうか分らない唯血量があるといふだけで何ともなく經過するのが普通でありますゝ、けれども其反對に又非常に苦痛を覺ゆる症狀を發して殆ど寢なければならないといふやうな場合に立到ることも澤山あるのでございます、先づ是れが月經の一般であります。

次に月經が如何に御婦人に對して必要であるか、何のために月經が毎月來るのであるかといふことは御承知になつて居ることが必要であります、第一月經の參りまする理由としては、月經は妊娠の土臺となるべきものであります、毎月繰返さるゝ二百瓦乃至二百五十瓦の血量が出て居る、是は他日受胎した後に於て胎兒を養ふところの一の材料となるので、それがために毎月出て居るのであります、それであるから若し妊娠となるといふとバッタリ此出るべき血量が無くなつてしまふ、さうして其血を以て胎兒を養ふといふことになるのであります、であるから此月經は妊娠の本である、妊娠の本であるとすれば妊娠はどう云ふものであるか、是は御婦人方に取つて最も大切で最も重要なる問題となるべきものであります、此妊娠といふことは種族繁殖といふことに缺くべからざることで、此がなかつたならば人口の繁殖も出來ず、國の富強を保つことも出來ないのであります、此大切なる婦人の任務の本をなす月經であるから餘程此邊に就ては御注意にならなければならないのであります。

次に第二の利益としてはどうであるかといふに、平素二百五十瓦の血量が毎月下ることになつて居りますから一の怪我をして身體から澤山の出血をしても平生其準備が出來て居るから二百五十瓦位の血量が下りた場合であつたとても、普通ならば非常に衰弱するのであるが、婦人は平生から其準備が出來て居るから比較的出血に對する影響を受くることが少いのであります、男子が若しも斯樣な多量の血液を失

つたならば非常に衰弱する、是れが御婦人の出血に對する抵抗力の强いと云ふ一つの利益であります。第三には、此月經がありますと體内から餘計な二百五十瓦の血液が出るのでありますからして必ず血管に異狀を來さなければならぬ、血行器に異狀を來し其他腸胃、膀胱、神經症狀といふやうな各方面の機關に異狀を來すことは無論分つて居る次第であります、それで醫者が御婦人を診察する時には如何なる症狀を以て來られても必ず先づ第一に月經に異狀はないであらうかといふことを考へた後でなければ其病氣の診斷を付けるといふことは容易でないのであります、それで若しも月經を度外視して診斷を付ける場合があつたならば、其醫者は決して用意周到なる醫者といふべき者ではないのであります、それであるから月經は醫者の診斷上にも必要の條件を具へて居るのであります。是れが月經の如何に利益であるかといふ一つの點であります。

次に月經は他の諸機關にどの位に影響するものであるかといふことをお話しやうと思ひますが、月經が參りまするといふ二百五十瓦の血量が下りるためには前に申しました通りに血行機特に心臟の動作に異狀を來すのであります、それであるから月經の症狀として動悸がするといふことがございます、其他下腹部に四週間目に充血をするために便祕をするといふことは皆さんの御存じのことであらうと思ひます、其他膀胱の關係から尿利が頻數になつて來る、或は胃の症狀を起す、近來の著書に依ると月經時には特に胃液の分泌量が増加して殊に鹽酸の過剩を來すといふことが書いてあります、是等は直接に腸胃に對して影響する結果であります、其他神經症狀、當時世間に頻りによくあるヒステリーといふやうな症狀が參ります、是等の症狀は皆月經が影響して惹起すのであります、斯くの如く諸種の機關に月經といふものが影響を及ぼすからして、輕々しく月經を見るべきものではないのであります。

以上述べました如く月經といふものは御婦人方に取

つては非常に重要な問題でありまして後來種族繁殖の大任を帶びて居らるゝところの方々の本ともなるべきものでありますからして、愼重に御研究なさるといふことは最も急務なる事と存じます、是れが大體の月經のお話をしたのであります、是れから各年齢に對して御注意を申上げやうと思ひます。

前に申しました通り初經は十六年四ヶ月といふ平均の年月に來るのでありますけれども、併し異例は澤山ある、此異例の場合を順序を立てゝ申上げるといふと、生れてから一年乃至二年の幼兒が月經を見ることがあります、之は異樣に御考へになるかも知れませぬが、屢ゝ報告されて居るところでございます、それが一時的に一ヶ月位來ることもあります、又二三回、どうかすると一年も續くことがあると書いてあります、これはどう云ふ譯で幼少の時に月經が來るか是れは一種の畸形であります、卽ち體内にある時に他の諸機關と比較して生殖器の發育が非常に速く發達して、卵巢であるとか、子宮といふものが他の諸機關より早く發達したのであります、他の諸機關がまだ働くことの出來ない間に其機關だけが働いて來て月經を見ることになるのであります、それであるから其點に畸形がある、他の點にも畸形があるといふことを想像しなければならぬのでありますからして、お子さんを御持になつた方々は、若しもさういふ異例があつたならば、其他にも何か異例はなからうか、或は肝臟に異狀はないか、心臟に何か異狀はないか、瓣膜に異狀はないかと云ふ、他の機關の異狀といふことを豫想して、さうして適當な處置をなさることが必要であらうと思ひます、それから少しく年齢が過ぎまして七歲から十歲頃に月經の來ることがある、それはどう云ふ譯かといふと其時代までは普通に他の諸機關と併行して發達して來たものが、其頃から漸次他の諸機關より少し先に進んで其局部だけの發達が著しくなるのであります、其ために月經を見るのであります、さういふ方々を注意して御覽になると大抵神經過敏である、さうし

て非常に感情の發達が著るしいことを認めるのであります、是等はさう云ふ性質が斯くの如く月經を早めるのではないかと思ふのであります、さういふ方は成るべく注意して感情の發達、神經過敏といふことを避けるやうにして向來の發達を妨げないやうにするといふことが必要であらうと思ひます。

次には十一歲から十六歲頃までの間に月經が參ります、これはどういふ譯で來るか、此時代に來るのは別にひどい異例といふことはない、澤山ある、又御經驗なさつた方もありませう、是れは此時代に身體の諸機關が總て他の方々よりか非常に發達して體軀も大きい、總ての榮養も十分に行屆いて居る、丁度是れを例へて見ると花であらば蕾の時代で、將に開かむとして居る時代になつて居るのであります、或る動機が來たならば開かうとして居る時でありまして、或る動機のために思はず早く開いたといふに止まるのであります、此時代にさう云ふ月經が參るといふ方々は、其狀態を見ると身體も成程立派に出來て居る、感情が非常に發達して神經過敏だと云ふやうなことが一般にあるやうであります、是等は其身體が出來て今にも開かうとして居る蕾が感情の發達或は神經過敏といふ事からして早く開いたものではないかと思ひます、それで此早期に初經を見るといふことは、どういふ弊害があるかと申しまするど、初經が早く參りまするど今までは自分でも子供であるといふ樣な感じがして居つたのが、經水を見ると何だか自分で早く大人になつた樣な氣持になつて當事大人ぶると云ふやうな傾きを來すのであります、それが高じまするど非常に感情の發達が早くなり神經過敏といふ事も加はつて來るのであります、さうして家庭とか云ふ考、或は社交とか云ふ考が、まだ平生ならばさういふことの考が自分に浮ぶべき時代でないのに、經水を見ると、家庭とか或は社交とかいふ考が澤山浮んで來るのであります、此時代は皆學業を專一になさらなければならない時代で、皆學校にお通ひになる時代であります、學校へお通ひに

なつて全力を學業に費やさなければならないと云ふ大切な時代に方つて家庭とか或は社交とか云ふ考が頭に若しも浮び、何だか自分も大人らしいといふ考へが頭に浮ぶと、自然に今日自分のして居る事がなんだか子供らしいといふやうな考が起るやうになつて來る、果ては學業が何だか馬鹿氣て居ると云ふ樣な氣持になつて爲めに學業の妨げを爲すことが屢〻あるやうに見受けます、是は非常な損害でありまして、學業盛りに學業に全力を費さなければならない場合でありますのに、家庭或は社交とか云ふことに其考を一部分でも取られるといふのは非常な損失です、それが極端になると遂には學校を罷めてしまうと云ふこともあります、其結果として早婚といふ一の弊害が起つて參ります、さう云ふ風に修業の妨げをする事もあり、或は早婚といふことを惹起すこともありますので、此時代に月經を見るといふことは餘程得なやうな又損な點が多いのであります、此場合に於ての養生法はどうしたら宜いか、今開かむとして居るところの蕾を成だけ好時期に開かすことが出來るかと云ふと、是は自然のもので、今咲かうとして居るのであるから、無理やりに止める事は出來ませぬが、或程度まで人工を加へれば遲く咲かして成だけ其花を持たせるやうにするといふことは出來ることであります、其參考として第一なるだけ其時代に身體がスツカリ出來、さうして凡ての榮養が十分に行つて經水でも見やしないかといふやうな身體になりましたら、成だけ過激の運動をしないやうにして戴きたい、是れが第一、それと社交的の考又家庭といふ樣な考は寸毫も頭に持たないやうにして居り、それから人情の極端を現はすところの小說又は演劇といふやうなものは成るべく避けたが宜しい、それが動機になつて感情の發達を促すといふことになるから是れは全然止した方が宜からうと思ひます、それから食物は成だけ酒精性の物を飲むとか或は刺戟性の物を食べるとかいふことを避けるやうにするが宜からうと思ふ、それで一方でさう云ふ事

をしてはいかぬ、斯ういふ事をしてはいかぬといふがそれならばどういふ風にしたならば宜からうかといふに、成だけ頭腦を空虚にしてさうして學校なら學校といふことに十分に頭を使ふ、其方にのみ頭を使ふやうにしたが宜しい、併し學校ばかりに頭を費して居るといふことは難しい事であるが、それで玆に注文したいのは學校の方面も十分にやらねばならぬのであるが、それと同時に一つ趣味の方面に向つて頭を使つて貰ひたい、御婦人方であるから活花であるとか、或は點茶とか、繪を學ぶとか、音樂をやるとか、凡てさう云ふ風の色々の趣味の方面に向つて其強盛なる勢力を學業に併せて發揚なすつたならば一方の感情を塞いでしまつて月經の早期に來ることは妨げるであらうと思ふのであります、どうぞ此時代には成だけ愼重の態度を以て心身の休養にお努めになるやうにして戴きたいと思ふのであります。

次に普通の十六歲頃になつて月經の來る模樣を申しますといふと、其初經が參りまする當時、まだ來るか來ないか分らぬといふ時の身體は、どんな身體をした時に月經の來るかといふことを豫想して見たならば、是まで比較的瘦せておいでた方々が十六歲頃になつて著るしく肥えて來た、脂肪が身體に附いて來たといふのが一番大きい條件の一つであります、又乳房の關係、乳房が發達して來る、是れが月經の來潮を證據立てる一つのものであります、それから又私の專門の方から申すのでありまするが、足の形が異つて來る、是までは細長い足であつたのが月經の前になると急に形が變つて見惡いやうな……見惡いといふも可笑しいが變な無格好な足になるのが普通であります、それ故お歩きになる足の格好を見て、あの足つきは月經があつたといふことを知るといふ位にして居ります、是等は外形上の月經の來潮を證明するに足るのであります、それと同時に從來何ともなかつた方が頭痛がする、眩暈がする、腰が痛いといふ樣な種々の神經症狀を訴へられる、又消化器の關係から物が不味くなる、或は睡むたく

なる、さう云ふ症狀を訴へられる場合であつたならば、或は近き將來に於て月經が來やしないかといふことを豫想して差支ないのであります、そこで茲に母親になる方々に御注意申上げたいことは、此時代に於ける方々は一般の習慣として月經であるとか經水であるとかいふことを大變嫌ふ習慣があります、是は西洋でも同じ事で此事を口にするのを嫌つて居る、それであるから愈々月經があつてからも經水といふ事に付て注意が足らない、其時代にはどうしたら宜いか、若し月經があつたらどうしたら宜からうと、月經の來潮に對して恐怖心を懷くといふことは多數のお方に見る所であります、普通の習慣から制せられてさう云ふ風になつて居りますから、問ふといふことも出來ずして急に來たために狼狽を來したといふことが屢々あるのでありますから、母親となる方々はさう云ふ徴候があつたならば先づ第一に御子樣に對してもう月經が來る時期でありはしないかもし來たら斯う云ふ風にしなければならないと經水の前後に對する注意をなさるやうにするのが一番宜からうと思ひます、是れに就ては後で詳しくお話を申上げます。

（以下次號）

叢談

年寄にならぬ工夫

年老いても、精神身體共に壯健でありたいと云ふのは、人間誰しもの希望でありませうが、此の狹い世の中に、何時迄も澤山の老人に居られては困ると呟やく、若い學者のないでもない。併し是は畢竟健康ならざる老人、又は樂隱居などゝ稱する老人を厄介者として申すことゝ思はれます。若し身心健全にして、所謂老いて尚ほ鑁鑠たる人であるならば、是實に尊敬すべき國の寶である。其の豐富なる實際上の經驗から得て來た所の智識は、眞に尊ぶべきもので

一國の政治に元老の與からざるを得ぬ如く、一家の中にも老人が必要である、老人の在る家庭と、老人の無い家庭とでは、萬事につけて其趣が餘程異なる、我々は老人を尊敬すると共に、自らも亦健全なる老人と成るの覺悟がなければなるまいと思ひます。

何人と雖も年を取らぬ譯には參りませぬが、年を取るのは病氣ではありません。世間では往々老年と疾病とを殆ど同樣に考へて居り、醫學者でさへも屢ゝ重い病氣の狀態を說明するに老人を比較に出すやうなことがありますが、此の考は正當とは申されません。老衰、老耄などゝ云ふ言葉がありますが、老年は自然の狀態に於ては、決して病氣の中に數へることは出來ません。健全なる老人を形容するに白髮童顏などゝ申しますが、實際七八十歲に至つて尙ほ面の艶々して居る人がある、彼の名高い獨逸の詩人ゲーテの如きも、實に其一例で、エッケルマンと云ふ人の記して居る所で見まするに、渠はその死なむとする僅か前の日にも、尙ほいみじき思想を述べつ、いと穩かに息絕し時、させる疾もなくてみまかりぬ、何ぞその手足のつやゝかなるや、若やぎは尙もそのむくろに宿れるものをといふて居ります、是れはその精神も身體も、更に老衰もせず、老耄も認められなかつたのであります。斯る例は我邦にも決して尠くはない、これを以て見ますれば、何時迄も若く、精神も身體も健やかで居ることが出來ないと云ふ筈はない、そこで我々は先づ所謂早く年の老ける原因を調べてこれを去り、何時迄も若く元氣を保つ工夫をせなければなりません。

一體壽命の長短は、各人に依て異なるものでありまして、例へば長命の血統であるとか、彼の家筋は短命であるとか申すやうに、比較的皆長生をする家族もあり、割合に皆早く死する性質の系統もあるのでありますが、一般に身體が弱り、精神が衰ひ、或は身心共に萎靡して、所謂早く老耄ると云ふのは何の爲かと申しますれば、勞働者などに於きましては、

主として過度の身體の働が早老の原因でありまして往々榮養の不足、酒の濫用が又これを助けるのであります、此の社會に於きましては、その仕事をするに必要なる力を補ふに、自然の法則に從はず、却て酒、燒酎のやうなものを以て元氣を付ける癖がありまして、これは外觀上一寸效能があるやうに見える、これに由て疲勞を慰し、榮養の足らざるを補なひ、仕事も十二分に出來るやうな氣がするのでありますが、併しこれは一時のこと、或は只外觀上に過ぎないので、これが爲に知らず識らず日々身體を害し、榮養の不足なることも感せず、遂に早く老耄れる原因に手傳をするのであります。

婦人、特に貧窮なる婦人に於きましては、著しく早く年の老けるのが見える、これは、啻にその身なりのむさくるしいからばかりではない、實際榮養の不十分なることが、主なる原因であります、幸我邦の婦人は酒精性飲料などを用ひませんが、一體婦人の身體器關は、男子よりも凡て身體的の仕事に對して過敏なものであります。都會では婦人は盛に化粧をしますから一寸目に付きませぬが、田舍に參りますると、男子よりも婦人の方が餘程早く年がふけることが著しく目立て見えます。兎に角榮養の不足と、勞働の過度なることは、確に其の主なる原因であります。

次に精神を使ふ方の人になりますると、又全くこれと反對で、特に大都會に活動する人でありますれば其の精神的の働が烈しく、身體の方は至つて僅かしか働かさない、而して朝から晚まで甚しく精神を興奮し、終日神經を勞し、食事も十分にする暇がなく晚になつて一時に暴飲暴食をし、時には夜の更くるまで頭を使ひ又は徹夜をするといふ有樣である。斯樣な人々の早く年老ゆるは別に疑のないことであります。就中責任の重く、繁忙なる會社や商館に勤むる人々などでは、以上のやうなことの外に、所謂交際とかいふ譯で隨分不健全なる遊興に耽ることが多い、此等の贅澤と精神の過勞と相俟て早く老耄れる

原因を成すのであります。この身體を害する所のものは、單に酒のみではない、凡て不消化物を澤山に詰込むといふことは、精神の過勞と共に早老を來す所の毒物であります。

又婦人、就中上流の令孃達は、身體の十分に發育することを望まぬかのやうに見受けられる、又現時の女子教育に於ても、その將來に對する女子身體の發育と、精神上の要求との間の關係は、尙ほ頗る遺憾なき能はざるものがある、女學校教育に於ては、今日でも尙ほ少女の體育に餘り重きを置いて居るとは思はれない。その智育は大したものである、出來得るだけ澤山の學問を仕込む、所が實際その眞面目なる職務に就くと、哀いかな、その薄弱なる身體は、その我儘なる精神に從ふに足らないのである、そこで忽ち心に矛盾衝突が起り、無闇に精神を勞して種種な病氣迄も惹起し、忽ち老衰の姿を現はすやうになるのであります。他の婦人に於きましては又これと反對に、精神を働かすことが餘りに少ない、卽ち無事安樂な家庭の中に在つて、全く爲すこともなく徒に日を送る人もある、これは矢張身體機關が正當の働をしない爲に、過勞と同じく有害であります。

前に述べました如く、身心の過度の勞役は、早く年をふかしますが、又餘り早く仕事を罷めますると、今度は不働萎縮、或は廢用狀態と云ふが如き危險が起ります。乃はち此迄身體も精神も盛に働かして居た人が、急にその職を罷めて安樂を貪ぼりますると忽ち老衰の狀態を現はして來るものであります、特に元來身體の薄弱な人で、只元氣だけで以て烈しい仕事をして居つた人は、尙ほ一層これが著しいのであります。これに就て面白い例があります、英國の或る病院の醫者で、此迄非常に忙しい職務を執て居りましたが、年も取りましたので遂に休職致しました、所が精神も身體も全然老況を呈して、眞に憐むべき容體となりました、そこで渠はその原因を認めて、もう一度昔の職務に從事致しました所が、その

精神を鼓舞すると共に、身體も同時に復た若返つて來たと申すことであります。これは働き盡した身體でも、元氣さへあれば、尙ほその精神に依て身體に活氣を帶ばしむることが出來ると云ふ適例であります。この不働作老衰とでも申しますやうな狀態は、一面に於ては、その身體を支配して居つた精神の興奮がなくなると起りますが、又一方に於ては年老いたと云ふので餘り身體の働を制限すると早く起るものであります。

この原因は、簡單に申せば次の如く云ふことが出來やうと思ひます。先づ我々の身體の働と云ふものは、凡て筋肉に依て行はれるのであつて、この筋肉の發育が十分であれば、從て呼吸も盛で、延いて血液の循環もよく、榮養が完全にゆく譯であります。然るに此の筋肉の發育が不十分で、これを運動することがないならば、以上の凡ての働が不活潑でありますから、身體は一體に萎靡するのは當然のことであります。それで何ぞ怪我をする、例へば手足の骨を挫いて、別に他の病氣もないけれども、靜に牀に就いて居なければならぬやうな場合には、青年であつても顏面が蒼くなつて、貧血の狀態を呈しますが一旦これが治癒して、身體を働かすことが出來るやうになれば、暫時にして復た血液も十分になりて、凡ての病狀が消失致します。

これが老人であれば、特に著しいのでありまして、一切の働を止めますると、種々の器官に病症を呈して參ります、例へば、頸の所にある甲狀腺など云ふものは、至つて小さなものでありますが、これに十分血液が循りませぬと、老衰が甚しくなつて參ります。それで年老つた人が、全く身體を働かさずに安樂椅子にばかり橫たはつて居るやうなことは、最も有害なことで、血液の循環が鈍つて種々の病氣を惹起すばかりでなく、身體の內の器官の働が惡い爲に重症に陷るやうなことになります。

不適當な生活法、不適當な榮養、過度の酒精飲用、特に年老者の不働作等が、合併してつまり早老の現

象を來す譯であります。それに種々の病氣が手傳をする、例へば慢性の氣管枝加答兒とか、心臟病とか或は血管の不健全、又は運動を妨げるやうな外部の病氣でもあれば、これは老衰を來たす原因となります。併し斯樣に申しましても、此等の病氣があるからとて皆々ひどく心配するにも方りません。氣管枝加答兒や、心臟病のある人でも、醫師の注意に從つて適當の養生法を守れば、別段苦みもなく隨分長命することも出來、又病氣に依ては、年を取るに從つて輕くなり、或は若い者に比して重くならぬものもあります、例へば糖尿病とか結核とかいふものはさうであります。

次に此の早く年老るのを防ぐには、如何すればよいかと申しますれば、先づ嚴重に衞生的の原則に從て生活するのが最も善いと云ふのは申迄もないことでありますが、大都會に住んで居る人では、なか〳〵これは困難なことで、種々健康上の危險を冒します併しこれに對して、我々は出來得るだけ有力な方法を講じなければなりませぬ。

先づ四十代迄は、元氣盛で、人間の爲すことならば何でも出來る、又抵抗力も強くありますから、餘程の危害にも堪へ、少々の病氣は直ぐ治癒致しますが五十歲から六十歲に至りますと、既にそうはゆかぬことは何人もよく知つて居る所であります。醫者でも年を取れば、その生活法を更へなければならなくなります、兎に角老人はその仕事を減らし、凡て身體の危害を蒙らぬやうに十分注意をしなければなりません。種々の官職でも定限の年齡がありまして、これを越しては、身體も精神も其職に堪へないことを示して居りますが、これは個人に於ても考へなければならぬことであります。

已に六十、七十の年にもなりますれば、最早二十歲や三十歲の人のするやうな運動は出來もせず、又必要もありませぬが、併し前に述べたやうな譯で、老人も適度に身體を運動し、精神にも相應の刺戟を與へることが必要であります。

精神を一方に向けて、過度に頭を使ふ人は、時々郊外に出て、全く平常と趣を異にした獵とか釣とかいふことをやるのは、精神上にも身體上にも頗る有益なことであります、其の貴重な休日を寄席、芝居などに費すは全く方法を誤つたことである。尙は吾々の先祖の主として行ふた所の仕事として、今日も醫師、教員、僧侶等の心あるものに依て行はれ又奬勵さるゝ所の植物栽培は、靑年にも老人にも最も善いことゝ思ひます。又婦人の草花、果樹栽培、或は植物採集などは、最も結構なことであります。

老人の罹り易い病氣は、血管の病氣で、其動脈が硬く脆くなりまして、これが破れて、彼の卒中などの起ることであります。これは隨分醫者の注意に依て用心しなければなりません。又氣管枝加答兒の如きも肺炎を起せば老人には特に危險である、又消化器病も老人ではなか〳〵油斷がなりませんから、はたの人の注意が大事であります。尤も老人は牀に就て居るのを厭がります、少しよくなれば直ぐ牀から這出ますが、これは適當な望で、餘り長く牀に就て居れば、前に申した不働作萎縮など云ふ危險がおります。

偖て如何に考て見ましても、年の取るのを防ぐ藥とてはありません、只攝生法に由て早く年老るのを防ぐ迄のことであります。嘗て佛蘭西の學者が若い動物から一種の物質を抽出して、これを注射して、人間の年老るのを防がうと致したことがありますが、頗る怪しいものであります、兎に角今日の所では老人を若くする藥は御座いません。要するに常に天然と親しむことは、老衰を防ぐ最良の方法と申さなければならぬ、特に大都會の中に生活して居るものは是非これが必要でありますから近郊との行通を便利にして、盛に都門を出て遊ぶに都合よくされんことは最も望ましいことであります。

不妊症及其の治療（承前）

乙　婦人における原因

其遠き原因は男子にありましたとしても、現在不妊の原因をなして居るものは、女子にある方が餘程多いものであります、其の近因とは如何なるものでせうか、以下順を追ふて、御話いたしませう。

婦人には先天的妊娠する事の出來ぬものが少くありません、卵が發育する所の卵巣の發育の不完全なものもあり、又其卵が子宮に達する道である所の喇叭管が狹い爲め、或は全く閉ぢて居る爲めに、妊娠の出來ないものもあります、又子宮の發育が不完全で長く少女の狀態に止りて生殖作用を營む事が出來ないものもありますし、或は一時は十分に發育しながら、二三年の後再び小さくなつて、元の少女の子宮に歸るものもあります、或は又卵巣、子宮等を全く有して居らぬ事もあります、又は卵巣や子宮はあつても腟がないのもあります、以上の樣な種々の畸形は總て妊娠を妨げるものであります。

又腟口、或は子宮口等が生れつき閉塞して居る事があります、殊に、腟口の閉塞して居るものは可なり多いものでありまして、之等は不妊の原因となるばかりでなく、破瓜期に達しましても月のものを見る事がなく、腹痛、不快、嘔吐、眩暈等を起すものであります。

以上のものは悉く生來でありますが、後天的に卽ち何かある疾病の爲めに妊娠不能となるものが、婦人に於ける不妊の原因の大部分を占めて居るのであります、斯樣なものは或は始めより一兒もないものもあり、又、一兒を生みたる後不妊となる事もあり、又二兒三兒等を生みたる後不妊となることもあります、此等不妊の原因をなすものは種々で一樣ではありません、或は淋疾の爲めであるものもあり、或は産褥における不衞生に歸すべきものもあり、或は月經時の不衞生、不潔、其他種々の傳染病等であります。

そして、不妊症を起す病氣の主なるものは子宮内膜炎、子宮後屈症、及び前屈症、子宮筋腫、子宮結核喇叭管の諸疾患、卵巣の疾患等であります、就中喇叭管炎及子宮内膜炎は淋疾によるもの最も多く、産褥の不衛生によるものが其次に位して居ります、又骨盤腹膜炎と申しまして、子宮卵巣等を包んで居る腹膜の一部が疾患する時は、卵巣内に發育した卵が外に出る事が出來ない爲に不妊の原因をなします。

子宮内膜炎は俗に所謂子宮病中最も多いものでありまして、其の徴候の概略を申しますれば、白帶下とて、白い不潔な水が子宮より流出し、時としては下腹の痛を覺え、月經は或は多過ぎたり、或時は少かつたり、又月經時に甚しき腹痛を感じ、又は月經の週期が變化したり等種々の月經障碍を來します、そして此等の徴候の結果生殖作用を十分に營む事が出來なくなり、且つ頭痛、眩暈、記憶障碍等を起し、或は怒り易く、或は泣き易く或は感情が變化し易くなります、即ち高度の神經衰弱を起します、昔より子宮病のある人はヒステリー性であると申して居りますが、此れはよく子宮内膜炎の症狀を表はして居ります。

此子宮内膜炎の原因は何であるかと申しますに、最も普通のものは淋疾に由來するものであります、即ち夫の淋毒が、子宮内に移し植えられたものであります、此外には月經時の不潔、不衛生、産時の消毒不十分、産褥の衛生を怠り、不潔なる布片にて局部を取り扱ひ、又はあまり早く運動をなせる等の際に起るものであります、此れも實際には少くありません、殊に一兒或は二兒を生める後の不妊の原因は多く、産或は産褥にあるものであります。

子宮内膜炎は何故不妊の原因となるか、此れは妊娠の現象をよく知つて居る時は、明な事であります。即ち、喇叭管内にて受胎した卵は子宮に達し、其内膜の上に食ひ込んで、漸々成長するのであります、其間の養分は悉く子宮内膜の血管より仰ぐのであります、所が其の内膜が疾患して居るのでありますか

ら、折角受胎した卵も榮養を十分に取る事が出來ません、之れ妊娠する事が出來ない所以であります。

子宮結核も一種の內膜炎でありますが、通常の內膜炎と異なるは、結核菌によりて起る病氣である事であります、此れは肺結核、腸結核、結核性腹膜炎、等のある患者に發生する事もありますが又男子の睾丸の結核が子宮內に傳染する事もあります、子宮內膜の結核は不妊症を來すばかりでなく、其生命をも奪ひ去る恐るべき病であります。

子宮後屈症及び前屈症、子宮は通常膀胱と直腸との間にありまして、少し前の方に曲つて立つて居ります、其れが更に甚しく前方に屈したものは前屈症といひ、反對に後方に屈したものを後屈症と申します、此れは何れも子宮の入口の處が屈曲するものでありますから、精絲の子宮內に侵入するを妨げます、しかのみならず、假令精系の侵入は妨げられなかつたとしても、多くは內膜炎を有して居りまして卵の成長を許しません、之れ不妊の原因となる所以であります。

又子宮後屈症は不妊の原因となるばかりでなく、漸く妊娠しても一二ヶ月の間に流産する事が多いものであります、若し其時に流産せなかつたならば、後方に強く屈つた子宮が非常に大きくなる爲め、膀胱直腸等を壓迫して種々危險な症狀を起し遂には死に至るものであります、一二ヶ月中に流胎するのは自然が、生物の危險を思ふての結果と見らるゝものであります。

子宮後屈症或は前屈症は如何にして來るか、其の原因は又種々でありますが、最も多いのは産褥に其の不衞生の爲めに來るものであります、産婆の消毒不完全は此際大なる責任を負ふ可きものであります、又幼時よりの手淫の惡習も此等の原因をなし、月經時の不潔も、注意すべきものであります。

後屈症或は前屈症のある患者の症狀は大凡內膜炎と類似して居りまして、月經時の痛みなども同じ樣に甚しきものがあります、月經不調、白帶下、神經

衰弱等を來し、其他種々不快なる障碍が起ります。

次に不妊の原因となる子宮の病氣は子宮筋腫と申すものでありまして、此は子宮の內外に生ずる、大さの種々な腫物であります、小なるものは雀の卵大のものもありますが、大きいのにては人の頭より大きなものがあります、唯一つの事もあり又數多い事もあります、子宮內に生ずるものは子宮の內腔を充して胎兒の成長を許さず、子宮の外面に生ずるものは子宮を引き伸して、精絲の侵入を妨け、何れも不妊の原因をなすものであります。

併し、子宮筋腫をもつて居る人でも、懷妊し平產をなすものも少くはありません、若し、筋腫が大きかつた時には產道を閉塞して產を妨げることもあります、然る時は渴望した妊娠が却て、仇となつたのであります。

此子宮筋腫なるものが如何して發生するか、此に就ては斯界の泰斗も、未だ說明する事が出來ない問題となつて居ります、此れは晩年迄結婚せずに居た人卽ちオールドミスに多いといふ事でありまして、多くは二十五六歲より四十歲前後位の間にあります。

次に子宮は全く健全でありまして、原因は喇叭管に存する不妊症があります、種々の原因による喇叭管の閉塞が卽ち之れでありまして、喇叭管の閉塞には卵巢にて熟した卵が、子宮に達する事が出來ないので、勿論懷妊する事が出來ません、唯非常に稀有なる時には、極く狹くなつた道を通つて中に侵入した精絲が卵に達して受胎し、其れは子宮に入る事が出來ない爲め此所に成長して、所謂子宮外妊娠といふものを形成致します、是れにては胎兒は普通の如く子宮內にあるものでなく、喇叭管內或は腹腔內に於て成長致します、そして、多くは充分成長する事が出來ませんで二三ヶ月で死亡し或は流產致します、臨月に達するものは極めて珍らしいものでありますす、何れにした所で、此は外に出る道が塞がれて居るのでありますから、產み出す事がありません、胎兒は腹腔內に出で種々の危險を惹き起すものであり

ます。
喇叭管閉塞の主なる原因は淋疾であります、淋毒は先づ子宮に入り內膜炎を起します、輕い時は是れで治りますが少しく療治を怠りますれば、更に上行して喇叭管に逹し此所に長く止つて、種々の害をなすのであります、其時の原因は産褥の不注意か手淫等主なるものであります。

卵巣自己の病氣が、不妊の原因をなす事は、屢々あるものではありません、此は腹膜炎の結果卵巣が厚い膜にて包まれた時、又は黴毒性卵巣炎の爲め、中の卵が悉く枯死した場合であります、黴毒の爲め不妊症に陷つたものは主に此の爲めであります、黴毒にては多くは不妊症といふよりは、妊娠はするが、流産或は墮胎するものが多いのであります、二三回續けて流産或は墮胎或は死産等をなした人があつたなら、醫者は先づ黴毒だなど思ふ位であります。

最後に不妊症と密接なる關係を有して居るものは、過度の肥滿であります、常陸山の樣に肥滿した婦人は多くは不妊症に陷つて居ります、此の脂肪增加は如何にして不妊の原因となるか未だ明かに知られて居りません、又此肥滿が果して不妊の原因であるか或は却て不妊の結果肥えて來るものであるかも決せられては居りません。

其他甚しき身體の衰弱、貧血等も不妊の原因をなす事はいふ迄もありません。

不妊症と月經困難との關係

月經の種々の困難が、不妊症と密接なる關係をもつて居る事は、月經の如何なるものであるかを考へて見る時は、明かな事であります、婦人の二つの卵巣は平均一ケ月毎に、交代に一つゞゝの成熟した卵を生じます、そして此の卵の熟して卵巣から喇叭管を經て、子宮に逹する其前後に、月經が起るものであります。

之に就ては二說ありまして、プリユーゲル氏は卵が成熟した時に、其卵が子宮に逹して成長する事が出來る樣に、準備する爲め、子宮より出血するのが卽

ち月經であると申して居ります、之に反して或人は卵が子宮に達して既に二十有餘日を經る時には、最早や生活力を失ひまして、子宮外に排泄されます、此時に月經が起るのであると申して居ります、パンチンスチール氏は月經は卵が卵巢を出た後に起るものである事を證明して居ります。

其れは何れが眞でありました所で、月經と、卵の成熟して卵巢から出て來る時とが、相前後して居る事は疑ふまでもありません、所で其の月經が普通でなく、種々の障碍を蒙つた時には、其の時に熟して卵巢を出た卵子の發育に障碍を及ぼす事は、いふ迄もありません、そして月經難といふものは、前に述べました諸種の病氣には必ず伴つてまいります、のみならず、其他の婦人科病にも起ります、次に月經困難の主なるものに就て少々御話いたしませう。

（以下次號）

美容法（承前）

顏を洗ひまするのには、石鹸を用ひます、これが無くてはとても、完全に皮膚を清潔になす事はむつかしいのであります。往々御婦人方は、石鹸で以て顏を洗へばキメをわるくすると申されますが、これは十分に行き屆いた觀察とは申されません。若し水でもつて、よく、洗はれまするならば、石鹸を用ひても害は無い譯であります、但し、石鹸が、良品でなければならぬ事は勿論であります。それで一寸、石鹸の御話しをいたしておきますが、元來、この石鹸と申すものは、カリ滷汁、或は、ナトロン滷汁でもつて、脂肪を煮る時に、化學的の結合に出つて出來た物であります。脂肪はグリセリント、脂肪酸の化合物でありますが、この際それが分解して、グリセリント、それから脂肪酸カリー、或はナトロンが殘ります、この後の化合物が即はち石鹸なのであります。而してカリ石鹸は軟らかく、ナトロン石鹸は硬

いのです。アルカリーと脂肪の化合が完全でありますれば、通常用ひ心地がよいと云はるゝ中性の石鹸が出來るのであります。若し其アルカリーが非常に多くて、これが脂肪酸に由つて悉く中和されない場合には石鹸の中に餘分のアルカリーが殘りまして、これが卽ちアルカリー性の、強い石鹸であります。次に石鹸はどんな風に働くかと申しますれば、中性脂肪酸アルカリーの石鹸が水に遇ひますれば、こゝに化學的の分解が起りまして、鹽基性と酸性の脂肪酸アルカリーとなつて泡が立ちますが其作用は左の如くであります。

(一)鹽基性脂肪アルカリーは、皮膚の汗腺から汗の中に出ました處の酸と結合し、又脂腺から分泌されたる處の皮脂が分解して出來た酸と結合して、これを中和し、其皮膚を刺戟する處の物を無害といたします。

(二)酸性の脂肪酸アルカリーは、餘分に分泌されたる脂肪と一種の乳劑を作ります。

(三)アルカリーは、剝れる處の表皮を溶して其下にある處のものを膨らし、これに由つて表皮を軟にし且つ軟やかにいたします、又表皮の下にある處の細胞膜を刺戟して、表皮全體を艶々しく且つしなやかに致します。

(四)泡沫は、この化學的の作用を機械的に助けまして、且つこれを洗ひ落すに都合がよく、これが無ければ皮膚に穢ないものや塵が殘ります。

(五)石鹸の中に遊離したアルカリーを含んで居りますれば、表皮の細胞にある脂肪を分解して、又石鹸となります、それで、皮膚は自然に保護の務めをなして居る脂肪を奪れます、これが卽ち強い石鹸の有害作用であります。只皮膚が非常に脂肪が多く所謂皮脂漏性の肌にはその餘計な脂肪を除く爲に極弱いアルカリー性の石鹸を用ひてよろしいが、其他のものは緩和の石鹸のみを用ふべきであります。石鹸の作用に由りまして、常に皮膚の脂肪が幾分か奪れますから顏を洗ひまする時に、

これと同時に脂肪を加へる目的で、ラノリン、或はオレーフ油を澤山に加へた石鹸があります。此種の石鹸は過脂性の石鹸と申しますが、これは用ひてもよろしい、但しこれを以て洗つてもこの際その脂の效能は至つて僅であるか、或は全く無いかとも思れます、それで私は、既に前にも申しました如く、あとで脂を塗る事を御勧め致します、尚これはあとで化粧法の處で詳しく御話し致します。

既に申し述べました皮脂漏性の皮膚にアルカリー性の固形のもの、厚き硬き皮膚に中性の液體のもの、頭皮にアルカリー性の液體の石鹸が用ひられる他、普通只緩和な中性固形の石鹸のみが用ひられます。一般の人も亦醫者まで種々の廣告で吹聴された石鹸が、果して其廣告通りの效能があるか無きか。又實際それがたしかに良い品であるかどうかを調べることは困難な事であります、それで、香りがよくて直段が高く極上等の石鹸と銘を打つても、未だ良い品とは申されません、醫者が一月以上も治療して癒すことの出來ないやうな皮膚病が單にこれ等の販賣品に由つて惹起される事があります。そうして醫者も其石鹸を取調べる事を忘れ、高い金を拂つて良い石鹸と自慢をして居る患者もこれに考へ付かぬ事があります。

尚私は自己流に決して藥用石鹸を用ひてはならぬ事を勧告いたします、例へば醫者と相談なしに、テール石鹸或は硫黄石鹸を以て素人療治を試みまする時は百の中の九十九は、その撰擇を誤つて病狀を益々惡くいたすと云ふ事は屢ゝ見る處であります。それでこれは寧ろ通常の石鹸を用ひて自然に癒るかどうかを待つて見た方が得策であります。

藥用石鹸は、只醫者の指圖に從つて用ひなければなりません、これは又大概全く無效と云ふ事は甚だ稀であります、且つそれに含んで居る藥劑が實際效能のある場合には、そんな極めて僅か作用するものよりも、大概他の方法で以てその藥劑を應用するので

あります。
それから尙私は餘り香のよい石鹼を望みません、若し其香を好きと云ふならば香料そのものを用ふるがよろしい、優美なる花には石鹼の香などはあまり結構なものではありません、そればかりでなく一體香の付いた石鹼と云ふものは、大概其化學的の組成が劣等で從つて有害であります。尙通常甚だ容易に且つひどく泡立つ石鹼はよろしくありません、これは極く安くて不良な椰子石鹼と云ふものであります。

皮膚の狀態は、無論又その上に纏ふものにも關係致します。或人は木綿が最も善いと云ひ、他の人は絹が善いと謂ひ、又他の人は毛織物が一番宜敷いと申しますが、何れも自分に取てこれが最も善いと云ふ根據を持て居るのであります、併し私は毛絲の襯衣や毛皮の襦袢は、不潔になり易く、皮膚を軟弱にすることを認めます。若し前に申述べたやうに空氣浴と乾拭法を實行する人であれば、ロイマチスに罹つて居る人でも、木綿或は絹の襦袢、時に依ては輕い網シャツを着て十分快く且つ決して感冒に罹るやうなことはありません。

（以下次號）



小兒の可愛さ

思子等歌一首并序

釋迦如來金口正說、等思衆生如羅睺羅、又說愛無過子、至極大聖尙有愛子之心、況乎世間蒼生誰不愛子乎。

うりはめば、こどもおもほゆ、くりはめば、ましてしぬばゆ、いづくより、きたりしものぞ、まなかひに、もとなかゝりて、やすいしなさぬ。

反歌

しろかねもこがねもたまもなにせむに
まされるたからこにしかめやも

親に與ふ　シエーフエル

いそしみて、汝が子はぐくめ、晝も夜も、傍離さず愛でよかし、かくてこよなく美くしき、暫の年を樂みね、げに嬰兒の夢の間や、これ汝がものぞ長からぬ。

やゝおよすけて程もなく、汝にはあらぬ樣々の、汝がものならぬ種々のものこそ誘へ、他し世を知らまく心胸に滿ち、たゞ行方のみ目に浮きて、現心も今はなし。

旅の袋を攜へて、爲すこと多く兒は去りぬ、彼が姿の消るまで、汝は涙に見送りつ、彼はや汝がものならじ。

彼は再び歸り來む、彼少女らと睦びては、やがて一人を擇ぶべし。

彼世に立ちて彼等より別なるものも出來べし。これは夫、一人の人ぞ、子にはあらなく。

娘こそなほ一度は嬉しくも、數多の子等を家に增せ、これは母、子にはあらなく。

いそしみて汝が子はぐゝめ、晝も夜も傍離さず愛でよかし、かくてこよなく美くしき、暫の年を樂みね。

獨逸の大詩人ゲーテは、そのタッソーといふ小說の中に、凡て人の缺點を見ずに、何時でもその人のよりえを認めなければならぬ、我等は自然を研究するが、それと共にこの自然や子供を喜ぶことを忘れはせぬ、我等は缺點ばかりをかれこれ云ふべきでないと申して居りますが、教師は兎角小兒の缺點にのみ能く目がつき、醫師は專ら小兒の惡い處は何處にあるかといふことばかりを尋ねる、これは勿論必要なことでありますが、吾々は先づ小兒のありのまゝを觀察して見たいと思ひます。詩人は又次の如く云ふて居ります。

小兒は吾々の心のまゝに造り得るものではない、神が我等に與へたやうにこれを保つて愛せねばならぬ。最も善く彼等を育てゝ役に立つものとしなければならぬ、或者はその天稟の才を持つて居り、他の

者は又異つた才能を有して居る。各これを用ひ、銘銘只固有の性情に從つて、これを善くし且つ幸福なるを得るものである。

若し母親が斯樣に考へまするならば、その小兒に對する喜びは一層深からうと思ふ。孔子樣が官にも仕へずに居られた時に、或人が先生はなぜ政事を遊ばされぬかと云ふた所が、孔子樣は、書經の中の言葉を引いて、家庭の内にも政事はある、政事をせぬことはないと申されたと云ふ話でありますが、實際我我は一家族の狹い埓の内にも世界の有樣が寫されて居ることに氣がつかず、その家庭生活上の寶を平氣に看過して居ることが多くあります。

先づ小兒の生育の有樣を能く觀察するならば、これがどの位面白いものであるか、又どの位有益なものであるか、又小兒が段々智慧づいて來るのを觀る時に、人間の極々最初の有樣から漸次今の世の中に至る迄の進歩發達の跡形を讀むことが出來、自分も大昔の時代の心持を味ふことが出來るといふやうな事は一向知らぬ人も少なくはない。哲學者、醫學者、歴史家又言語學者などが、小兒に依て大なる刺戟さ智識と興味とを得たためしは隨分古くからあることであります。小兒の可愛さについては、希臘詩人のホメルスが『ヘクトールの別れ』などいふものゝ中にも見え、古代イスラエル人の精神は、彼のダビテ王の『子等は机の周なる橄欖の枝の如し』などいふ詩の詞に表はれて居り、又我國では、前に掲げました山上憶良の歌の如きものがあります。尚は大盜賊が人の家に忍び入つて、其處に居つた幼兒のいぢらしさに我を忘れて遂縛られたなどいふ美談もあり、且つは兒童生活の美に對する近代の思想は西洋では子供神としての耶蘇崇拜によく表はれて居る、我邦の佛教徒も追々これを眞似て、釋迦誕生を所謂クリスマス風にし、やがて子供神として釋迦を祭るやうになるかも知れません。或人の申すには、祖先崇拜といふことは誠に結構なことであるが、吾々は子孫崇拜の方が更に大切なことゝ思ふと言はれましたが

實に味ふべき言葉であると思ひます。

近來醫學者の方では、頻りに小兒の精神狀態を種々の方面から研究致しまして、益々古人の歌や、詩の面白味を感ずることでありますが、凡て學術上の研究と云ふものは、自然の有樣の如何にも不思議なるに驚嘆して始まるのでありまして、此等の兒童の研究も學問上から論じて參ります前に、人々の心の中には、已に久しく小兒に對して恩愛、柔和、無邪氣等の貴ぶべき影響を享けて、深く其幸福なる感情を味ふて居つたのであります。一體小兒といふものは、なぜ可愛らしいのかと申しまするに、自分で生で、自分で乳を飮まして、育てた人は、これは格別でありますが、一般にその活潑なる空想的の生活が人を動かす最も強い原因であらうと思はれる。即ち兒童は凡ての物事を詩的に、お伽話的に解釋するので、吾々成人の無味乾燥になつて居る頭には、その爲すこと話すことが特別に面白く可笑しく感ぜられるのである。元來世中の敎育を受けまするとき人間は不自然になり不正直になる。けれども何ぞ生活を一轉する時には、復び自然の本性に歸るものであります。これと同じ樣な原因で以て吾々は、兒童の遊ぶのを見たり、これと話をしたりする時に、それに引きつけられるのであつて、全く性格に關係なく無邪氣になるのであります。

斯樣な場合に吾々は何やら人間生活の深い秘密に觸れたやうな、又これを辿つて無形の生活の因緣といふやうなものを捕まへたやうな氣が致すものでありまして、靜けき森に松風の音を聽く時、星影さゆる蒼天を仰ぐ時、はてしも知らぬ青海原を眺むる時、こゝに一種の崇嚴なる神々しさを感ずる如く、幼なき兒等はいみしく人間生命の感を與ふるものであります。

彼のルッソーといふ人は、最も強くかういふ感情を表はして居りますが、此人は吾々に深く兒童を觀察して、所謂敎育と稱する痛ましき仕方を防ぎ、沈思默考してその足下に伏し、生命そのものゝ本來の美

竝びに永遠より來る所の表現を悟らむことを敎へました。この純潔、淸淨、本來の面目こそ、兒童をして不思議にも我等を感動せしむる高尙なる美の本體となすのであります。

尙ほ凡てその身體の、か弱く、和やかなこと、次に助を要すること、又全く柔順なること等は、その美の印象に、一種の溫みに充ちた成分を加へることになります。其の他心配することなく、凡てを信じて疑はぬといふことも、確かに感動を與ふる主なることで、實に兒童生活の大切なる特色であります。大人は名譽とか富貴とか云ふことの爲に、只將來を思ふて劬勞をし、その現在を樂むことを忘れて居りますが、兒童は刹那に活きて、未來の爲に思を惱ますことはありません。自分固有の小世界の中で幸福を感じて居るのは、兒童自然の持前でありまして、泣て居る間にも直ぐこの特色が現はれて參ります、實に彼等の中には天の王國が在るのである。これは常に喜びの情と、信賴の心とに滿ちて居り、又物事を思ひ煩ふことなく、單純で正直であるからであります。この單純と正直といふことが特に人を動かす所のあどけなき小兒の性質であります。又物を弄ぶにも、物を食べるにも其方法が如何にも滑稽で、自分の考へることに間違つた言葉をあてはめたりするのも可笑いものでありまして、凡て此等の小兒の身體竝に精神の發育してゆく間の事は一々滑稽的な可愛らしい趣のあるもので、若し此等のことを日記に附けて置きますならば實に價値ある家庭の寶物であらうと思ひます。

やゝ小兒の發育が進んで參りますると、益々小兒と人間全體の歷史との間の關係が見えて參ります、一體小兒の發育と人類全體の發達とは同樣なもので、その遊仲間を求むるのは家族を成す所の精神であり最初の心の働や感じは卽ちお伽話や物語を作り出したのである、又小兒の言葉を覺え初める有樣は、實に人種の言語發達の姿を寫して居るのであります。以上は通常の小兒につきて申ましたので、尙ほこの

他に病的のもの、異常のものをも見なければ完全な觀察とは云はれないのですが、病的のもの、異常のものと申した所で、これが全く別な、反對して居るものと云ふものではなく、其間には種々な移行きがあるのであります。兎に角小兒が健康であるにつけ病氣であるにつけ、これが一家の中心となる、實に家庭を樂しくする花、家庭を溫むる所の太陽、生活の基礎であります。凡て小兒の力、その美、その健康に由て一國の進歩發達を來し、光輝を增すのでありまして、健全なる兒童なしに健全なる國家は出來るものではありませぬ。只健全にして、身體も精神も力に滿ちた品性の高い子孫に依てのみ、國民の健全にして、有力なる事業が續けられ、商業に工業に偉大なる軍隊に、はた整ふた政治法律に、精神上又藝術上の見事なる成績も表はれ、大發見、大改良も出來るのであります。實に只健全なる子孫のみが精神並に身體の最も發達した、有爲なる國民を成すのであります。

誤つた家庭教育

今日世間で家庭教育といつてゐることは、主に小兒の精神上の教育で、一口にいへば小兒の仕附と申すことであります、小兒の仕附といふことは勿論大切なことでありますけれども、家庭教育といふことは只精神教育のことだけではありません、良いことにも惡いことにも慣れ染め易い小兒を、只一日五時間位學校の杓子定規的教育に托して置いては、決して立派な小兒を作ることは出來ないものでありますから、自然家庭教育といふことが必要になつてくるのであります、歐洲各國の家庭を見ますと、先づ中流以上の家庭ならば、必ず家庭教師といふものが置いてあつて、小兒の教育を托してあります、たとへこれは置いてなくとも、母たる人は大抵十分教育のある人でありますから、小學校位の小兒の教育は譯なくできるのであります、それ故母は同時に立派な家庭教師であるといつてよろしい、翻つて日本の狀態

を考へて見ますに、女子の教育は今日でこそ先づ人の注意に昇るやうになつて、女學校とか女子大學とか、または女子に專門の學術、伎藝を授ける色々の學校なども出來て、稍〻完全な女子教育が出來るやうになりましたが、これも未だ日が淺いために、隨分誤つた教育をして字は讀めるけれども、炊飯が出來なかつたり、客に應對が出來なかつたりするやうな片輪の女子を作ることがあります、こんなことは段々經驗を重ねて、覺えることが出來るとしたところで、一番大切なこと、卽ち家庭で小兒を教育するには如何にするかと云ふことは、一向判らない（尤もこれは只概括的のことで、誰でも女子と云ふものは皆左樣といふのではありません）只少數の女子教育家ともいふべき人があつては女子の教育に從事してゐるものでありますから、斯ふ云ふ結果に成るのは止むを得ないことであると思ひます、それ故家庭教育と云ふことは、全然不完全たるを免かれないのであります、また一方家庭教師といふものは、今日の日本にはまだあまり用ひられてゐません、上流の家庭になると少しはあるやうですけれども、これも極て僅ばかりで、歐洲の家庭とはまるで比べものにはなりません。

日本の將來を雙肩に擔つて起つべき小兒に、完全な家庭教育を施さないと、その結果は如何に成りませうか、ナポレオンは外國を征服すれば、すぐその國の女子を研究して、女子は國の母であるから、世界各國の女子の最も良いところをあつめて、それを手本にして、佛蘭西の女子を教育しよう、そうすればその母から生れる小兒は完全無缺の小兒であつて、將來國家を托すことができるやうな小兒であるだらうと申されたといふことでありますが、誠に然るべきことで、女子の教育は卽ち小兒の教育であつて、小兒を立派に教育しやうといふには、先づ女子の教育からして掛らねばなりません、家事その他のことは、初めの二三度を犧牲にすれば、その次は大抵誤りはありませんけれども、小兒の教育には、こんな

ことは決してできません、若しそれをすれば、犧牲にされた小兒は全く役に立たない人間となつて了ひます。

昔からの通弊であつて、今日是非考へねばならぬことは、小兒を叱ることであります、或人は小兒を叱ることを小兒の教育のやうに考へてゐます、これは大變な間違ひで、小兒は叱られるために、益々惡くなるのであります、私は今日このことについて少々御話致す積りで、この題を出したのであります。

小兒を叱るといふことは、決して良いことではありませんが、必ず惡いといふことでもありません。世間で小兒を叱るのは、どんなときかと考へて見ると母の氣に入らないことをしたときであります、母がこれは良いこと、これは惡いことといふことを、明かに知り分けてゐて、その惡いといふことを小兒がしたときには、叱るのもよろしい、併し小兒がすることは、大人の行とはまるでその意味を異にしてゐるものでありますから、小兒の行について、一應考へて見なければなりません、人間が出來るには、母の胎内で初め目に見えない一の細胞から、段々大きくなつて行くのでありますが、それが一人の小兒となつて了ふまでには、魚や鳥などと同じやうな形を通つてくるのであります、つまり太古に人間の元は一の蟲であつて、それが段々と進化して、魚になり鳥になり、犬になり、馬になり、猿になり、とうとう人間になつたのでありますが、その間の色々の時代を母の胎内で、十ケ月の内に仕遂て了ふのであります（學問上では、これを眞實と認めて、人間の生れるまでには、十ケ月の間に系統的發生を繰り返すのであると言つてゐます、系統的發生と云ふのは、蟲から段々進化して人間になることであります）、身體の形が斯う云ふ風に下等な動物と同じである時代を過ぎて、來るのでありますから、精神の狀態もまた下等な動物と同じである時代を過ぎて、そして終りに人間並の精神になるのであります、ところが精神の發育は、身體の發育よりも餘程遲れるものであ

りますから、身體の方は、母の胎内で、立派な人間の形に成つても、精神の方は、まだなか〱さうは行かず、生れた當分は、恰度猫の子や犬の子と同じで、只乳を飲で屎尿を出すだけが、精一杯の能であります、精神と云ふものは全く働かないから、物を見たり聽いたりしても、何んだか少しも判らない、これは恰度獸よりもまだ下等な時代の精神を示してゐるのであります、それからだん〱大きくなるに從つて、精神は働いてゆくのでありますが、人間並の精神となるまでには、まだ〱間のあることで、犬や猿の精神時代を過ごさなければなりません、やたらに玩具をこわしたり、いたづらをすると云ふのは、犬や猿の精神であります、その時分に、玩具をこわしたり、いたづらをしたからといつて、叱つたといつて、決して效めはありません、こんなことは本能であつて、するのが當然であるのであります、それ故叱る方が間違つてゐるのであります、その外また、小兒には夫々特異な性質を持つてゐたり、また精神の發育の有樣に由て、惡いことをしたりすることがありますから、母となる人は一應これをも知つて置かねばなりません、これを詳しく申せば、小兒の心理學や、精神病學のことになつて了ひますから、そんなところは止めにして、たゞ誰でも知つてゐなければならぬことだけをお話致します。

小兒の精神は今申し上げたやうに、段々進化はしてゆくものの、どうしても親の遺傳を受けるものでありますから、この頃のやうに酒を飲むことが盛になつて參りますと、精神に異常のある小兒は益々增へて參ります、その異常と云ふ內には、澤山種類がありますが、劇いのは馬鹿と云ふので、輕いのは鈍愚とか癡愚とか云ふものであります、こんな小兒を敎育するのには、あたり前の小兒とは、違つた方法に從はなければならぬのでありますから、こんな小兒に小言ばかり言つてゐた日には、益々小兒をひねくれさして了ひます、そんな小兒はどんな所が、並の小兒と變つてゐるかと云ふと、先づ身體の方から申

せば、瘰癧、口の内の腺が腫たり、眼の惡いもの、鼻の惡いもの、癲癇、頭が非常に大きいもの、脊柱の彎曲つたもの、身體の小さいもの、身體や頸の出つたもの、上脣の切れてゐるもの（兎脣）、出齒、耳廓が大きかつたり、小さかつたり、形が變であるもの、指や趾の數が通常でないものなどがあります、こんな小兒には大抵精神の異常があつて、憂鬱性といつて、特別の原因がなくして鬱ぎ込で了ひ、これと反對に爽快性といつて、別段喜ぶべき理由もないのに喜んで騷ぐと云ふことがあります、また喜ばしいことや悲いことがあつても、それを何とも感じなかつたり、今喜んでゐるかと思ふと、直に泣き出すと云ふのもあり、一寸のことで笑ひ出して、止め度のないもの、人の顔を見れば直ぐ笑ひ出すもの、一寸のことでひきつけるもの、一寸の ことを大變可恐がるもの—臆病のもの、人の厭がることを好くもの、大變臭ひものを好いたり、壁土を食べたりするもの、美術や道徳の方面には少しも顕著しないもの

即ち佛壇に惡戯をしたり、墓を倒したり、床の間の立派な繪に落書をしたりするもの、犬の兒や、猫の兒を捕へて酷い目に遭したりするもの、これと反對で蟲や蛙を馬鹿に可愛がると云ふことを致します。

こんな小兒を學校にやつて、その成績を見ると大變出來が惡いので、親は小兒に小言を云ふ、けれどもその成績の惡いと云ふのは、自然に精神の發育が間違つてゐるためでありますから、これを癒して了はない内は、學校の成績は決して良くなりません、小言を言ふために、却て惡くなります。

こんな小兒は智力が足りないばかりではなく、物事に注意すると云ふことが出來なくなつて、本を讀んでゐても、氣は凧のことを考へたり、毬のことを考へたりするのでありますから、少しも覺えることは出來ません、また物を想像すると云ふことは出來ない、自分の今まで覺えてきたことを土臺として、色色のことを考へ出すと云ふこと、即ち應用力と云ふものは全くない、記憶力は全くないで、追想が間違

つて、ありもしないことをあつたやうに思つて、昨日買つた毬を呉れろと云ふ、實際昨日毬を買つたのではないのに、買つたやうに考へ違ひをする、これはまた嘘を云ふ原因にもなるので、昨日向島に櫻を見に行つて、大變綺麗であつたと云ふことを人に話す、併し實際行つたのではなく、行つたやうに思ふのであります、小兒の嘘と云ふものは、大抵この追想の異常に由來するものでありますから、小兒の嘘に未來のことは少しもない、皆過去のことについて嘘を云ふのであります。

こんな小兒を持つた親だちは、小兒の精神に異常のあることを知らないで嘘を言へばいけないと言つて小兒を叱ります、そうすると小兒の方では、決して嘘を言つた覺がないので、自分が物を言へばすぐに嘘だ〱と云つて叱られると思ひ込んで、終には何を云ふにも、心配しながら言ふやうになりますから小兒は自然の發育を障げられて、ひねくれた小兒になつて了ひます。

今までお話致したやうな小兒は、世間に澤山あるものですが、それを教育すべき方法はまだ備つてゐません、またこんなことに氣が付いてゐる親は、甚だ少いと思ひます。それなら如何にしたら、こんな小兒を十分に教育することが出來るかと云ふに、それは次のことを常に心掛けて置けば、先づ間違はないと思はれます。

前に申したやうな身體の變化を見出したら、すぐ醫師に診療して貰つて早く癒して了はなければなりません、學校の成績の内で、讀本は良く出來ても、算術がすこしも出來ないと云ふときには、算術の出來ないことを責ないで、讀本の方を十分に奬勵して、發達させるやうにせねばなりません、若し惡いことをしたときは、これに小言を云ふのにも、靜に能く言ひ聽かせることが必要で、一度や二度ではその效めは顯はれて來ないものですから、十分に忍耐して氣長に言ひ聽かせるのが肝要であります、これに反對に大きな聲を立てて小言を云ふと、小兒の心が亂

れて腦力は實際よりも弱くなり、性質は不從順となります、學問はなるべく本人の意に托して置いて、無暗矢鱈に詰め込まないやうにすることが大切であります、遊ばせるのにも、芝居や活動寫眞などのやうに、精神を刺戟したり、眼や耳を刺戟することはなるべく避けて野外などで愉快に遊ばせて、同時に身體の運動を十分にさせると云ふ方が良いのであります、身體の弱いものには、十分に氣を付けて、健康にするやうにしてやることが大切であります。

斯ふいふ風にすると小兒はまるで野生の草のやうにしたい放題のことをするやうになるだろふと云ふ方があるかも知れませんが、實例に照らして見ても、叱る主義の家庭よりも、餘り叱らない家庭の方が、小兒の性質や學校の成績などが良いものであります、精神に異常のある小兒などは、殊に左樣でありまして、叱れば叱る程小兒はいぢくれて參ります。將來の國家に立つて、日本を世界に紹介すべき責任を持つてゐる小兒を、生れ落ちた時分から敎育して行くべき母は、十分に氣を付けて小兒の精神や身體を健康に仕立上げ、天晴れの國民を作ることに努力しなければなりません、敎育上については、日本はまだ〳〵研究すべきことは澤山ありますが、その內でも家庭に於ける小兒の敎育と云ふことは、一番大切であつて、將來の敎育の土臺となるものでありますから、先づこれから研究改良して行かねばならぬことと思ひます。

（完結）

乳媼の選擇

母親が自分の乳で其子を育てると云ふのは、これは天の定めたる處で、又實に其義務で有ります。凡て善い事に天然を利用してゆくのは智惠ある人間の務むべき事でありますが、これを惡用し或は自然の法則に反けば、必ず相應の罰を免れません。

古來我邦の婦人は、一般に自分の乳を以て小兒を育てゝまゐりましたが近來に至りましては、西洋流に

格別なる理由もないのに、動物の乳をもつて育てる樣な惡習が這入て參りました。これを人工榮養と申しまして、自然榮養に對して惡用するのでありす、而してその結果の不良なる事は、醫師の明かに認めて居る處であります。

一體牛の乳は牛の子を育てるに適當して居りますが人間の子を育てるには不適當なのであります、然るに牛乳で育てた方が却て良いなどゝ云ふ愚なる事を申す者が間々あります、それのみならず人の體には他から這入つて來る處の毒に對して、其害を防ぎ毒を消す處の働きがあつて、小兒に乳を飮ますれば小兒の身體にもこれが移つて行きますが、他の動物の乳や、其他の物を以てする人工榮養の小兒に於ては其力が遙かに弱いのであります。これら種々の原因からして、人工榮養の自然榮養に劣つて居る事が明かでありまして、實際人工榮養の小兒が病氣に罹り易く、病氣に罹れば癒り難く自然榮養の小兒に比して其の死亡數が非常に多いのであります。それでありますから、決して牛乳などを以て小兒を育てずに是非母親自身の乳を以て育てる樣にしなければなりません。然しながら、實際そうばかりはゆかぬ場合があります、それは、どう云ふ場合かと申しますれば、乳房の發育が不完全で小兒が哺乳する事の出來ない場合、生來乳のでかたが不足で小兒を養なふ事の出來ない場合、例へば乳腺炎だとか、其他の乳房の病氣で乳が十分出ないやうなものであります、又分娩時の出血が餘り多かつた爲に母の身體がひどく衰弱して居る時、褥熱に罹つた時、乳頭に皹裂が出來て痛みの烈しい時は無論でありますが、倘病氣では、結核、著るしい神經素質の遺傳ある人、重い腺病、高度の貧血、心臟瓣膜病、癲癇、重き欲斯的里、急性傳染病、脚氣などであります。

以上の如き場合には、其乳をもつて小兒を育てる事は出來ません、玆に至つて初めて人工榮養と云ふ事の必要も起つて來るのであります。そう云ふ譯で人工榮養でなければ小兒を育てる事が出來ないとなり

ますると、これは中々面倒な事でありまして、母親の乳なれば、元來その兒を育てるに最も適當して居つて、始めから終りに至る迄其成分が小兒の成長に丁度比適して、申し分がなく、何等の面倒もなく自然に育てる事が出來ますが、人工榮養となりますると、矢張り動物の乳を選ばなければなりませんが、これには、自然其成分が最も人間の乳に近い、馬とか、山羊とかを選びますが、これは一寸得難い、そこで止むを得ず普通牛乳を用ゆるのでありますが、其成分が人間の乳には餘程遠いので、色々と調合して用ゐなければなりません。そればかりでなく、乳房から直に飮むのとは違つて、牛乳屋が搾り取つて賣るのでありますから其間には隨分不正な混ぜ物をしたり、尚夏季などは腐敗し易く中々安心して飮ませる譯には參りません。それでは、なんぞ乳でないものをもつて育てる事が出來るかと云ふに、これは尚一層困難な事でありまして、乳粉とか申して米とか麥とか、或は豆などの粉をもつて育て様としても三四ヶ月に至ります迄は小兒の身體の中にはこれらの澱粉を消化する作用が備はつて居りませんから、身體の養ひとはならず、只胃腸を素通り致し下痢を起す位の事であります、それで色々の人工榮養品も製出されましたが、いづれもそれのみでは十分に小兒を育てる事は出來ません、矢張り牛乳の様な動物の乳を用ゆる他に仕方がない。

けれ共、牛や馬の乳を用ゆる前に、人間の乳を用ゆる事が出來ると云ふことを考なければなりません、即ち乳媼を雇ふ事でありまして、母自らの乳をもつて養なふ事の出來ぬ場合にはこれに如くものはないのであります。然しながら、乳媼を雇ふのにも乳さへ出れば善いと云ふ譯にはいきません、これには十分其選擇を嚴重にする必要があります。若し乳媼を雇ふとする時には、醫師に檢査をして貰へば一番宜いのでありますが、今こゝに其醫者が檢査を依頼されました時に、乳媼に付いて如何なる處に氣を付けて、此の乳媼なればよろしい、或はこれはよろしく

ないと申すかを述べましたならば、これに由つて大概乳媼の選擇が出來樣と思ひますから次に其の大體を申し上げます。

古の支那の醫書に乳母の性質、即ち親切であるとか薄情であるとか、性急であるとか、野呂間であるとか、凡て其德行の善惡迄其の乳を飮む小兒が皆似るものであつて、丁度植木屋が接木を爲る時に其の接木が全く臺木の樣に成ると同じ事であると申して居りますが、これは稍云ひ過ぎた樣にも思はれますが然し面白い言葉であります。

まづ乳媼は生みの母と略同じ頃に產をした者が最も良いのでありますが、然しそれよりも三週間或は五週間程前に分娩した者でもよろしい、これは乳が十分に出て長い間飮ます事が出來るからであります、又初めて產をした者でなくともよろしい、既に一人二人小兒を育てた者を選ぶのもよいのであります、その年齡は二十歲以上三十歲以下で、皮膚や髮の毛色なども、成るべく小兒の母親に似て、齒は健全且つ綺麗で、其性質は神經質の者ではいかぬ、成るべく氣の落付た、オツトリした者を選ばねばなりません、倘本人の今迄の生活狀態、それから是迄重病に罹つた事があるか無いか、若し病氣をしたならば其病氣はドンナ病氣で有つたか、父母兄弟は健康であるかどうか、死んだ者があればそれは何んで死んだかを調べる、次に全體の體格を見て皮膚の狀態から、齒齦や目の裏の色、殊にトラホーム樣のものがありはせぬか、又全體の肉付きから骨組、倘皮膚に斑點や瘢痕などがないか、頸や腋下などにグリ〳〵が無いか、特に齒は健全で澤山蝕齒などはないか、唇などの爛れはないか、口中や鼻が臭くないか、腋臭がないか、と云ふ樣な事も調べる、それから、心臟、肺臟、胃腸の具合等も診察し、倘生殖器病のあるなしも檢査をする必要がありますが、これは普通むつかしい事であります。

次に是非檢べたいのは乳母の小兒の健康であるか、どうかと云ふ事でありまして、其小兒に遺傳黴毒、

腺病、其他の病症があつてはなりません。西洋では八荅敷これを檢べますので乳母に雇はれる者が、往往他人の丈夫な小兒を借りて行つて醫者や雇主を欺く事が少なくないと云ふ事であります。

乳媼の乳房は、其見た處又重みに出つて乳が澤山であるか、どうかゞ分ります、まづ乳房の皮膚は張つて居つて、光澤があつて、太い青筋が皮膚の下に透いて見へなければなりません、又乳頭はいぢると直にかたくなり易く、その乳頭の長さも十分小兒がからむ事が出來る樣に突出て居つて傷などがあつてはなりません。斯う云ふ乳房でありますれば、先誂向きの物でありますが、一見脂肪に富んで居つて立派な乳房の樣であつても、一向乳が出ないものもあり、又これに反して見た處は餘り豐かでないが、乳をだす腺の發育が良くて中々よく乳の出るものもありますから、乳房の檢べも輕卒にはなりません。一體よく乳の出る乳房の型と云ふ物は、眞桑瓜の樣な格好を爲て居るもので、これが先最上のものでありますが、其次にはこれよりも多少短くて少し垂れたもの又普通張り詰めて茶碗をかぶせた樣な格好で圍りにひゞ筋のあるのは大概餘り乳の出ないのが多い樣であります。其他力を入れて吸はなければ出難いものと、一寸吸ふて出るものとありますから、其出難いものになりますると、身體の弱い小兒には困難であります、それで小兒の強い弱いに出つて多少これも氣を付けなければなりません。

良い乳房は輕く壓した處で少なくとも、五六本の腺から乳が奔ばしり小兒が既に滿腹した後でも矢張り其位でなければなりません。兎に角乳媼を雇ふ時に一日程留めて置いて小兒に乳を吸はして見るのに大概二十分間も哺乳して、乳を飲みながら小兒が眠る樣であれば、この乳媼は十分小兒を養ふに足るものと見てよろしいのであります。いよ〳〵乳媼を雇ふたとなれば、其乳媼がこれまで食べつけた飲食物を急に變へない樣に、なるべく今迄の習慣を守らせるのが宜しいのであります、然しこれで以て小兒が消

化障碍を起していつ迄も癒らない様な場合には、止を得ず又乳媼を替へなければなりません、而して最初より三時間毎に規則正しく乳を與へる様にして、厳重にこれを守らしめて勝手な時に乳を飲ませる様な事は爲てはなりません、最もか弱い小兒であれば一時間或は二時間毎に少しづゝ乳を飲せなければならぬ様な事もあります。尙乳を與へる度數に就いて一言申添へて置きますが、始めの一週間は、九回、第二週後は、八回、一ケ月の末には、七回、それから後は、六回位の割で、例へば午前の六時、九時、十二時、午後の三時、六時、九時に乳を與へて、夜の九時から朝の六時迄の間に小兒の欲しがる時にもう一回位與へてもよろしいが、これは最初の一週間位の間として、其後は朝迄なるべく與へずに眠らしめる、こう云ふふうに時間を守つて乳を與へまするならば、二十四時間に僅か、七回で澤山であります、最もこれとても、當り前の規則でありまして、其小兒の強い弱いにも由り、又病氣の時などは醫者の相談を受けて多少變更しなければなりません。

家庭衛生

妊婦の養生法

婦人が妊娠すると云ふことは、生理上の事柄で、決して病氣ではない、併し約二百八十日の間、我體内に胎兒を守つて居るのであるから、普通の婦人に比して、身神の狀況多少異るは、當然のことであります。

母體養生の可否は、直に胎兒に影響を及ぼすものであるから、健全なる小兒を得んために、母となるべきものが、心を盡して、養生の法を遵守することは婦人の務めであります、婦人天職の主なる一つは、子を產み、子を育てることであります。

人は精神的動物である。精神の發達其宜しきを得た

るもの程、人の價値は多大となるのであります。されば何れの場合にありても、精神の養生を守ると云ふことは、人間生活の上に大切であることは、申すまでもありませぬ。

婦人が妊娠するときは、精神の感じは、常よりも強くなります。平常別に感じなかつた事柄も、深く氣に止め、此爲めに受ける感動が胎兒にまでも影響を及ぼす、これ胎教の論ある所以である。

精神感動のために流產をするとか、或は早產を來す如きは、素人も夙に知つて居る所であります。

それ故一面に於ては、精神の刺戟を少くすることを謀ると共に、他方面に於ては、輕便な業を與へて、勉めて精神を安らかに導くやうにしなければなりませぬ。徒に飽食暖衣を貪るが如きは、却て由なき事柄のために、心を煩す種となります。

感動の劇發は、單に悲哀の方面にのみ見るに非ず、喜樂のことがらも、其度を過ぐれば、感動となり、さては、惡しき影響を子に及ぼすことゝなります。これは大に注意を要すべきことであります。

運動もまた、妊婦には必要な事柄である、運動によりて、消化は輕易となり、不眠の如き、或は便祕の如き、此運動によりて、除かれることがある、農婦の如きは、妊娠の時と雖も、徒に家に在りて坐することをせず、矢張田野に出でゝ適度に働くを以て安產の方法と會得して居りますが、これは全く自然の方則を不覺の間に悟つて居るものと言つて宜いと思ふ。

併し勞働は、何種によらず、適度でなければならぬ、其度過ぐれば、害は一段と多くなる。

空氣淸涼なる處に出でゝ散策するが如き最も適したものであらう、長途の汽船又は汽車旅行、或は自轉車、乘馬、遠足の如き、このために流產又は早產を招くことがあります。

飲食物は、俄に改める要は無い、寧ろ平常の習慣に從ふを佳とす。併し成るべく其消化し易きもの、且滋養多きものを選びて、刺戟性のものは宜しくこれ

を節し、睡眠に先ち種々の飮食物をとるはよからず、又冷熱其度を過ぐるものも害あり。

衣服は、寒溫其季に應じて、適當に選ばねばなりませぬ。衣服は努めて清潔を保たねばなりませぬ。要するに、其質輕くして、身體に伴ふものを選ばねばなりませぬ。窮屈なるはよろしからず。

腹帶は、通常五箇月にしてこれを用ゐるの習慣あり、これは幅廣きフランチルか或は綿布を使用してよろしい。

腹帶の效用は一にして足らず、卽ちこれによりて腹部を溫め、子宮及び胎兒の位置を保護し、且運動に便を與へ、一方には、懸腹と申して、無闇に腹部の突出を防ぐことゝもなります。併し徒らに幅廣きものを用ゐて、胸や、腹を強く緊ることはよくありませぬ。又腰から下の方は、冷え易きにより、フランチルの如きものにて、溫に保つやう注意をするのです。

清潔の必要なるは、啻に妊娠時に限りませぬ、けれども妊娠時は、殊に注意して、不潔を避けねばなりませぬ。衣服、寢具は勿論、居室も努めて清潔に保ち、殊に身體の清潔は肝要なものである、入浴は、毎日一回或は隔日一回とし、始終よく洗ひ、わけて腰の周圍は、清潔にして、粘液等を去らねばなりませぬ。

浴湯の溫度は、冷熱宜しきに從はねばなりませぬ。又入浴後寒氣に冒されるが如きことなきやうに注意するのがよろしい。

乳房も清潔にして、傷を受くるが如きことなきやうよく保護せねばなりませぬ。小兒の榮養は此乳房の中に貯へらるゝからである。若し其乳頭扁平にして小兒哺乳の不便を發るときは、始終手にてこれをつまみ、延ばすやうにして、分娩後、授乳の用意をして置かねばなりませぬ。

居室内は、空氣の流通よく、光線の射入十分にして靜なるを要し、演劇、寄席の如き多數人の集會するため空氣を汚染せらるゝこと著しき場所に永居をす

ることは、惡い。

妊婦は、普通便祕を招き易きにより、通じを正しく整へ置かねばなりませぬ。便祕の場合濫りに下劑を用ゆるはよろしからず、下劑を用ゆるには醫師について、其意見に隨はねばなりませぬ。

便祕を防ぐ簡單の方法は、平常適當の運動を營み、朝、空腹の際、一椀の淸水又は果實、若しくは牛乳を飲むを佳とす。それにても便祕治せざるときは、微溫湯又は石鹼液にて灌腸すれば宜しい。

妊婦は又十分睡眠を得ねばなりませぬ、深夜遊戲に耽り、或は朝早きに起きて、睡眠の時間を殺ぐが如きは、身體のためによろしくない、此ために消化不良を起し、或は精神過勞に陥ることがあります。

妊娠の期進むに至りては、夫との同衾もこれを謹み健全なる子女を得んために、十分の注意を盡さねばなりませぬ。

疼痛の手當

痛みと云ふものに就ては、多少經驗のない人は、まづ、無からうと思ひますが、さてそれは何んなものかと問れましたならば、甘い鹹いは何う云ふものだと、味を說明する事のむつかしい樣に、色や形で以て痛みを云ひ表はす譯にはまゐりません。如何にして其の痛みが起るかと云ふ事は、生理學上明かに成つて居りますが、これを御話するには多少又解剖上の說明も致さなければなりませぬからこれは又別に申し上げる事と致しまして、こゝには單に身體に起る處の刺戟に由つて惹起さるゝ一種の感覺であるこ申して置きませう。例へば火傷をすれば皮膚が赤くなつたり、黑くなつたり、樣々な變化が表れます、死んだ身體に於きましても火を附ければ矢張變化が起る、所が生きた身體に於ては單に目に見える變化ばかりでなく、死物と異る一種の作用が起ります、卽ち其の變化をうけた部分の刺戟が其處に有る神經

を傳はつて、脊髓から腦の方にいつて其處の神經細胞を刺戟して一種の興奮となり、こゝに痛みと云ふ感じが起るのであります、これに由つて何ぞ身體に危害を受けた事が分り、又既にその何事であるかも分らぬ中に途中から別な途を通つて筋肉の方に終つて居る神經に由つて、思はず手足を引く樣な事になります。これに由つて危害を免れますが、若しこれが無つたならば、眠つて居る時に煮立つた湯をかけられても、火を附けられても、眞黑になつて仕まう迄知ずに居る事でありませう。これに由て見まするど、痛みと云ふものゝ、生物にとつて如何に大切なるものであるかゞ分ります。

けれども、この痛みと云ふものは、感覺の中で最も不快なる感覺でありまして、其度にも種々ありますが、劇しいものになりまするど、思はず泣き叫び或は氣を失なふに至る事もあります。其性質も刺戟の異るにより、部分の違ひに由り、或は刺す樣な痛みもあり、又灼く樣な痛み、切る樣な痛み、裂く樣な痛み、錐で揉む樣な痛みもあります。尚人に由つて恐くは又、人種に由つても、痛みを強く感ずる者と弱く感ずる者とあり、又豪傑の樣にひどい痛みにもよく我慢をする人もあり、又少しの痛みでも泣きだす弱蟲もあります。

痛みの起る病氣も色々ありますが、こゝには、普通見る所の痛みの二ッ三ッを擧げて、簡單に其手當を御話し致します。

一、神經痛

神經痛の主なる症狀は、名の如く神經の通り道に疼痛があるのでありまして、この疼痛は大抵一定の神經の枝、又その廣がつて居る部分に起ります、これで顏面神經痛、坐骨神經痛、肋間神經痛、頭痛、偏頭痛などゝ云ふ種々の病名があります。これらは如何なる原因に由て起るかと申しますれば、先づ刺すとか、切るとか、挫くとか、又鐵砲丸、腫物などの爲に神經が壓されて起る、即ち外傷、異物の爲に起ることがありますが、又親讓りのこともあり、或は

酒や煙草の飮みすぎ、黴毒、麻刺利亞、インフルエンサ、其他又鉛の中毒に由て起る、乃ち鉛のはいつて居る白粉を久しく用ひたりすれば起るのであります、この外歇斯的里などいふ病に因ても起ります。

この神經痛に由て涙が出たり、汗が出たり、嘔氣を催したり、痛の劇しい爲に氣が變になるやうなこともあり、顔や腰の曲ることもあり、手足の痩せることもありまして、痛の度も樣々であります。

神經痛の療治には、凡て其原因と認むるものを除くことが第一で、種々の藥を用ひ、或は電氣、按摩などを用ひ、場合に依ては外科手術を行はなければならぬものもありまして、兎角素人の方々には困難なことで、是非醫師に掛らなければなりませぬが、唯だ普通其部を溫めれば、餘程痛が和らめられるものであります。併し一般に神經痛は頑固なもので、其原因も重い病氣のことがあり、又神經炎などゝいふものに移行いて、漸次惡くなつて行くことがありますから、矢張なるべく早く、醫師に就いて、治療を受けることが必要であります。

（以下次號）

長命法（承前）

サー、ジョンストン

生れは千八百五十八年、本年滿五十二歳、人生の日本相場を二年も行き過ぎた方であります、即ち多方面に趣味を持つてゐる方で、算へあげれば、旅行家で、著述家で、科學者で且つ政治家であると云ふ、まるで小間物屋のやうな方でありますけれども、今日英國の新進の人才と申せば、先づこの方を第一に擧げねばならぬと云ふ程の、才と云ひ學と云ひ誠に申分ない方であります、衞生のことには、別段に氣を附け、色々の研究もして居られると云ふので、食物のことなどに就ては、恐らくこの方と肩を比べると云ふものは無いと云ふことであります、また旅行家でありますから、所々方々の地土の氣候や地味の

こゝまでも詳しく調べてゐられます、自分の最も好むことは、繪畫、生物學、音樂などであると申されます。今この方の養生法を伺つて見ると、次のやうであります。

(一)食物　二十歳頃と比べて見ると、この頃は食事の分量が、大變少くなりました、概して申せば、この方が身體のために良いと思ひます、食物は十分に煮て用ひ、動物の肉類はあまり食べない方が良い、併し私自身は野菜よりも動物食の方を好んでゐます、私の常に用ふるものは介類、魚類、牛肉、羊肉、豚肉、果物類などでありますが、一度分の分量は極く少量にしてゐます。

(二)飲料　好きなのは、茶、咖啡、甘い酒類、葡萄酒などでありますけれども、何んでも用ひます、その他の酒類は私には適しないものと見えて、少しも飲めませんけれども、麥酒は少々位飲めます、併し一番好きなものと云へば、清潔で、冷い泉水か、さもなくば茶と咖啡とであります。

(三)喫煙　私は喫煙致しません、併し別に理由のあることではなく、只煙草を用ひても、私の神經には何にも作用しないで、害になることも益になることも思ひませんからであります。

一口に申せば私は、生活を平易にして、食物を適度にして、強い酒やその類のものは用ひないで生活してゐるのであります、大酒、大食は全く必要ないことで、その結果は頂度ギルレイの諷刺畫のやうに害になるものであります。

以上三回に渉つて、御紹介致した、十二人の名士の養生法に就いて、これから醫學的の説明と批評とを下すことに致します、先づ今まで擧げた食物の方から始めますが、これを表にして見ると次のやうであります。

姓名	食物
ウイリアム、ブース	滋養に富んだもの、消化し

やすいもの、麵麭、バタ、穀物類、乾酪、野菜、果物などを適度に用ゐ、肉類、魚類、禽鳥類は用ゐない。

トーマス、パーヂー　あまり動物性の食物を用ゐない。

ロード、レイレイフ　動物性の食物は多く用ゐない。

サー、ファイルズ　規則正しく食事をして、必要以上のものを食べず、自分の身體に適したものを用ふる。

ジー、グレース　適度に食事をする。

ペンジャミン、キッド　良く料理した、消化しやすいものを少し食べる。

エッチセイス　滋養に富んだもの少しを用ゐ、肉食はあまり用ゐず。

レイ、レンクスター　暴食、大食を避け、魚類、芳香物、鷄卵、乾酪、牛乳、麵麭、牛酪、豆類、鳥肉、獸肉、羊肉などを食べる。

アーザー、ジョーンン　肉類、果物普通の食物を用ゐます。

アール、シムス　魚肉、鷄卵、カカオ、林檎、スープ、牛肉、乾酪、サラダ、豚肉。

エドマント、グロック　規則正しく、少しづゝ食べる。

サー、ジョンストン　少量づゝ、介類、魚類、牛肉、羊肉、豚肉、果物類を用ふ、肉食はあまり良くない。

斯ふ云ふ風に、十二人の方は、夫々違つた意見でありますが、規則正しく食事をして、滋養に富んだものを、適度に食べると云ふ主意は、皆同じであります、誠に尤なことであつて、滋養に富んだ食物でも

無暗に澤山詰め込んだ日には、胃や腸はそれを消化することが出來ないで、折角の滋養分も、その儘身體の外に出て了ひます、只そればかりではなく、胃や腸は傷められて、胃腸の病氣を起して、意外の損害を受けるものであります、昔或大名のお料理番に九十歳の老人があつて、却々身體が健康でありましたが、人が皆その健康なことを不思議に思ひましてその人にどんな養生をすれば、あなたのやうに長命が出來るのであるかと尋ねました、そうするとその料理番の老人が答へるのには、私は始終殿様の御料理をして居て、鶴を料理することが度々でありますが、どの鶴を料理して見ても、その胃袋が一杯になつてゐるのを見たことはない、そこで私は考へましたが、鶴は千年と云ふ長い壽命を持つてゐるのは、全く大食をしないためであるのだと、氣が付いたから、それ以來私は食物を適度にして、決してお腹一杯に食物を食べたことがないが、それでこんなに年を取つても、健康なのでありましようかと申したと云ふ話があります、これは只の話ではなく、實際よく學理に適つたことであります。

身體は食物で養はれてゐるものでありますから、身體を健康にしようとするのには、食物を十分に身體の肥料に出來るやうにせねばなりません、食物は只胃や腸の内に這入つた許りでは何にもなりませんでこれが消化されて、血液の内に吸收せられねばならんのであります、それには是非胃や腸が健康でなくてはなりません、大食をすれば胃や腸は傷められるのは、前に申し上げた通りでありますが、また食事をするのに、頂度小兒のやうに時間の定もなく、自分の氣に向いたときに、食べると云ふやうなことをすれば、胃腸はまた傷められるものであります。

食物が胃の内に這入つてくると、胃は運動を始めて消化液と云ふものが分泌せられ、これと食物とがよく、混ぜ合はされて食物は頂度牛乳の濃いもの丶やうになつて、腸の方に送り出されるのでありますがその時間は人々の性質や、食物の分量や、また食物

が消化され易いか、消化され難いかに依て、違ひますけれども、大體を申せば、胃腸との境に在る幽門と云ふ所が、十秒乃至十五秒間宛に開いて、少し宛食物を腸の方に送り出して、六七時間位經てば、胃は全く空虚になつて了ひます、それがまだ空虚にならない內に、また食物を胃に入れますと、胃が空虚になるまでには、餘程長い時間を要します、それ故胃は始終働いてゐるものですから、十分に働くと云ふ力が少くなつて、食物は胃の內から腸の方に送り出されることが少くなつて、胃の中には、始終食物が溜つて居て、遂に胃が大きく膨れ出して、胃擴張と云ふ病氣が起るのであります。食物を少しづゝ食べて、その食べる時間を規則正しくして置けば、決して、こんな憂はありません。

滋養に富んだ食物が、身體のために良いことは、誰も知つてゐることでありますから、わざ〳〵申し上げる必要はありませんが、一寸生理學上のことを一言申し上げて置きます、人間の身體が生活して行くのに是非入要だけの滋養分は、醫學上定まつてゐるもので、獨逸のフォイトと申す人が研究して定めたのは、次のやうな割合であります。

蛋白質	一一八・〇瓦
脂肪	五六・〇瓦
含水炭素	五〇〇・〇瓦

併しこれは、極く大體のところでありますから、誰にもこれだけで、適當してゐるとは申されません、脂肪五六・〇瓦と云ふ分量は隨分多いものでありますから、日本人のやうに脂肪質をあまり好かない人種には、到底これだけの脂肪を食べることは出來ません、また人々の職業、身體の大小、住んでゐる土地の氣候などにも關係して、少し宛は違ふものであります、これは外國人の身體についてしらべたことでありますが、日本人について調べて見ると餘程成績が違ひます。

兵卒	蛋白質	七一・〇瓦
	脂肪	一四・〇瓦

商人	含水炭素	五二四・〇瓦
	蛋白質	九六・〇瓦
	脂肪	二〇・〇瓦
車夫	含水炭素	四五〇・〇瓦
	蛋白質	一五七・六五瓦
	脂肪	二五・五八瓦
	含水炭素	一〇〇〇・〇瓦
農夫	蛋白質	一〇一・八八瓦
	脂肪	二四・二四瓦
	含水炭素	五九七・三六瓦

蛋白質と申すものは、大變滋養の多いものでありますが、これに植物蛋白と動物蛋白との二種類があります、動物蛋白と云ふ方は、動物性食物の内には必ず含まれてゐるものでありますが、一番多く含んでゐるのは、鯉の肉であります、それ故昔は病氣になると鯉の吸物を食べさせたものであります。植物蛋白と云ふ方は、野菜類の内にあるもので、豆類、バナナ、慈姑などの内にありますが、一番澤山あるのは落花生の内であります。脂肪と云ふのは誰も知つてゐる通り油のことであります。含水炭素と云ふのは、水を含んでゐる炭素と申すことで、澱粉質(馬鈴薯、米、甘蔗など)や砂糖類のことであります、これも隨分身體の滋養になるもので、砂糖は澤山たべると却て胃を傷めるのですから、世間ではあまり身體の滋養にはならないやうに思つてゐますけれども、これは大間違ひで、四五年前まで、鐵砲玉と云ふお菓子がありましたが、あれは田舎では一里玉と云つて、田舎の路を歩くときに、あれを一つ口の内に入れて置けば、一里の間は身體が疲れないと云ふのであります、まさかそんなこともありますまいけれども、砂糖は身體に元氣を出させることは、確かなことで馬などが疲れたときは、氷砂糖を食べさします、また日露戰爭のとき、露國の兵卒は皆鐵葉の小筥の内に角砂糖を入れて持つて居ましたが、あれは麵麭に付けて食べるためではないので、全く興奮劑であつて、食物が無くなつて、身體が弱つた時に

食べて元氣を恢復しやうと云ふ目的でありますゝ露國ばかりではなく、英國や佛國の軍隊でも兵卒に砂糖を持たしてゐます。日本ばかりはまだこのことを見ません。

（以下次號）



質疑

問・友人二十歳、顔面一體にフキデモノ（ニキビのうみしものならん）出て、いろ〳〵下をかへ品をかへて見ましたが、未だに何の效能もありません、まだ結婚前のことで、親達もひどく心配の樣ですから、どうぞ本誌上で、最もよき方法及び藥名御敎示下さいませんか、伏して御願ひ申ます。

山形縣一會員　百合子

答・皮膚病は見た上でないと、特に診斷が六ケ敷い且つ同じ皮膚病でも、其時に依て大分療法が異つて參りますし、僅かの具合で非常に效能が表はれ又益々惡くすることがありますので、殊に御嫁入前の人の顔面の病氣とあつては、なか〳〵無責任なことを申上る譯には參りません。皮膚病は何でもないやうに思つて、素人療治を致しますと、大概あべこべに惡くして、頑固の病氣にし易いものであります、是非皮膚病專門のお醫者に就て、御療治あらんことを希望致します、それで玆には別に御答が出來ないと致して置きますが、果して面皰又痤瘡と云ふものであれば、本誌第貳百參拾八號の『美貌に就て』といふ題の下に、隨分細しく療法が記してありますから、御參考になつてよからうと存じます。



雜報

○種痘法

本年一月一日より施行さるゝことゝなれる種痘法に依れば、第一期は小兒出生の翌年六月、即ち小兒の二歳になる六月迄に種痘を受け、第二期は小兒の數へ年十歳になれる時に種痘するものとす、故に第一期の種痘は、市町村長より種痘期日を指定さるゝ迄もなく、出生後既に三ケ月も經たらむには、各人醫師に就て小兒に種痘を受けしむるを可とす、又第一囘の種痘不善感なる時は翌年も亦種痘を受け、種痘證書は善感、不善感に拘らず、大切にこれを保存すべく、又病氣其他の事故の爲めに指定されたる期日に、種痘を受け能はざる場合には、其事情を市町村長に届出で猶豫證を得ざるべからず、此等の義務を怠る時は、小兒の保護者は相當の罰に處せらる、尚は從前の種痘規則に依て既に種痘したるものは、七歳以前に種痘濟なれば第一期種痘を了りたるものと見做し、數へ年十歳になれば新種痘法に依て第二期の種痘を受けざるべからず、數へ年八歳以後に種痘せるものは、第二期の種痘を受けたるものと見做さるゝを以て定期の種痘を受くるに及ばず、併し此の新法の施行されたるに就ては、本年一月一日後に嫁を迎へ婿を取り、弟子、小僧、下婢、職工等を雇入れたる場合にも、その未成年者なる時は種痘の濟否を調べ、それ〲手續をなさゞるべからず、然らざればその監督者、保護者は亦罰せらるゝを以て注意せざるべからず。

○救護所

日本赤十字社東京支部にては、京橋區南紺屋町二十一、日本橋區本石町三の六に救護所を設置し、路上工場、劇場其他群集の場所に於て傷病者を生じ或は生じ易き虞ありと認むる時は救護員を派して應急手

當を爲すことゝなせるは、既に前々號にも記せる所なるが、同所にては毎日午前八時より午後十二時までで醫員、看護婦及び事務員を在勤せしめ、治療に關する諸種の材料を整頓し置き、無料にて不時の求に應じつゝあり、京橋救護所の如きは開設以來既に四百五十餘名の傷病者を救護せりと、尚ほ昨今花見にて雜閙の場所には所々救護員を派出して傷病者の救護に任じ、電車の乘換頻繁なる各停留所にも追々設置する計畫なりと云ふ。

○衛生試驗所

先年來新築工事中なりし東京衛生試驗所は、本年三月を以て完了を告げ、先月二十六日その落成式を擧行し、午前九時より午後四時まで公衆の觀覽を許せるが、同所の階上は會議室、豫備室、圖書室、光學的試驗室、附屬室、裁判化學室、標本室、器械室等に分かれ、階下には乾燥室、印紙場、事務室等の設備ありて、衛生上に關する諸般の綿密精確なる研究試驗を行ふに殆ど遺憾なし、元來同所は醫師の藥劑試驗の爲に設けられたるものなりしが、其後擴張して一般公衆の井水、鑛泉、牛乳、果實野菜、肉類、草根木皮、化粧品、玩具、其他種々の飮食品、日用品等の有毒又は有效の試驗を請求するに應じて精密なる檢査を行ふべき設備をなしたるも、未だ洽ねく世に知られずして、疑はしき井水を飮用し、牛乳の良否も辨せずして小兒に與ふる等の危險を冒しつゝある人尠なからざるは遺憾のことゝ云ふべし、何人にても衛生上疑はしき物に就きて質すの必要ある時は、願書に五十錢以上の手數料を添へて差出す時は、衛生試驗所は十分の責任を以てこれを檢査し、その良否如何を知らしむべし。

○猩紅熱

東京府下に於ける猩紅熱の流行は益々盛にして、本年一月以來の患者總數百六十餘名に達し、昨年に比して遥に其數の增加を示し、此勢を以て繼續せんには甚だ恐るべき現象を呈するに到るべし、然れば警視廳にてはこれに關する告諭を出し、尚ほ痳疹と

誤りて輕々に看過し、其病毒を蔓延せしむる傾あるより去月十七日更に左の公報を發布せり。

麻疹、又は其疑ひある患者、若くは其死者ありたる家に於ては、速に醫師の診斷若くは檢案を受け又は直に其所在地の警察官吏に屆出べし。

前項の屆出を爲すべき義務者は、一般民家に在りては戸主若くは之に代るべき者、寄宿舍、船舶及び育兒院、又は之に準ずべき場所に在りては、其の首長、管理人、若くは代理とす、醫師麻疹を診斷し、若くは其死體を檢案したる時は、直に患者若くは死體所在地の警察官吏に屆出べし。

本令に違背したる者は科料に處す。

○藥違ひ

本月十四日芝區愛宕町橋本某四女(本年二月二日生)俄に死亡せるより、係官の臨檢を經たるに、此の小兒は、數日來消化不良の氣味にて、某醫師の治療を受け居たるに、其の母も亦腹痛の爲に他醫の診察を受ることゝなれるが、何れも散藥を與へられたるより、下婢は藥を取違へ母に與ふべきものを小兒に與へたるに、恰も此の藥のモルヒ子劑なりし爲め、小兒に對してはその用量多過ぎ、中毒に由て死せるものと判明し下婢は引致されたりと云ふ、何れの家に於ても注意すべき事なり。

西洋雜俎

○犬の負傷者搜索

近頃は戰場で、負傷者の搜索に犬を利用する事が流行つて來た。何の種の犬でも、これに役に立つと云ふ譯にはゆかぬが、スコットランド產のコリスなどと云ふ犬は尤も適當して居る、獨逸でも行きにくい場所や、隱れて居る場所で、負傷者を搜がすに犬を使ふ練習を試み、衛生隊犬の應用が採用さるゝ事になつた。各狩獵隊には、二疋づゝこの犬が附屬して居る。それでライン河の畔のオーベルコッテンドルフには獵犬特別飼養所がある、又墺太利亞でも二個狩獵聯隊で、常に衛生犬の用意を爲て居る、墺太利亞で

此犬を訓練する方法は二期に分れて居つて、最初の數個月は營内で行ひ、次の六ヶ月乃至八ヶ月は絶えず野外で行はれる、犬が負傷者を見附た時には一種吠え聲でこれを知らせる、後になると非常に困難な地形で燈火を附ける事も出來ない狀況で練習するのである。佛蘭西の軍隊では犬は負傷者を見出だした時に吠聲で知らせるのでなくて、負傷者の帽子のやうな所持品を持ち歸へる方法にしてある、そうして擔架卒に其道を教へるやうに訓練してある、この衛生隊犬の應用はボア戰爭又日露戰役の時にも大に役に立つたと云ふ事である。

○早生兒の運命

月足ずの兒は通常弱くて、其の僅の者が生き殘る、それも大概特別に注意して看護した場合であるが、一體これらの早生兒は、育つて行くか又育て甲斐が有るかと云ふに獨逸國ミユンヘンのバンドレル教授は四百人の小兒に付いて統計を取つて下の如く答へてある。それに由ると十分育つて其八〇%は全く正常である、そうして只一回精神薄弱の兒があつたがこれに反して一八%は目立つて利口な兒であつた、英吉利病及び腺病は僅かに二%であつた、バンドレル氏の曰ふのには、これはつまり早生兒の生活能力が良いからであると云ふた、この場合の生活能力と云ふのは、その固有性を保つて增殖し發育する所の生活物本來の能力を云ふのである。弱い小兒の取扱ひ法は保溫器或は暖氣櫃でもつて、體溫の放散を少けなくして體溫を節約してやらなければならぬ、そうしてこれを養ふには乳媼が必要である、看護人は小兒の啼くやうに刺戟を與へ屢ゝ寢返りをさして且つ冷えないやうに氣を付けるのである。

○無痛分娩法

近年は女が、痛みなしにお產をしたいと云ふ希望が盛んになつて、醫者の方にも影響を及ぼして來た。それで無痛分娩の新方法として、モルヒンスコポラミン痲醉法と云ふのが試みられたが、これに付いてドクトルフアイト氏の云ふところでは、適當して居

ない場合にも、區別なしに行ふのは良くない、寧ろこれはいらざる事を醫者が人工的にやるので有る。然しこの麻醉法も全然排斥する譯ではない、只實地上制限しなければならぬと云ふのである、それ故に歇斯的里や神經衰弱症には、應用してもよいが、凡て健康な者には行ふべきでない、尚ほ産科で必要な場合には、モルヒネを併用し又は併用せずに、クロ、ホルム或はエーテル麻醉を施すことは、既に應用されて居ることであると云ふた。

大日本婦人衞生會記事

○本會役員會

三月　日午後一時半より、本會事務所に於て役員會を開き、總會並に懇親會等の件につき協議する所あり、午後四時過散會せり、當日出席の役員姓名左の如し。

濱尾副會長　松平芳子　三浦敬子
岡田德子　田村きよ子　宮本樂子
高木鎌子（其他）

○本會入會者

○事務所申込
●麻布區府立第三高等女學校内　通常會員　職員茶話會

○莊司氏紹介
●本郷區千駄木林町一九三　通常會員　生田藤尾子
●日本橋區蠣殻町二ノ十四中外醫事新報社内　贊成員　阿部喜一郎

○事務所申込
●北海道函館區廳立函館高等女學校内　通常會員　校友會

○山形支會入會者

●　通常會員　松村いく子

○轉居

●麻布區霞町一へ　吉武輝枝子
●韓國京城大和町二ノ四〇へ　河野仲衛
●牛込區北町三五へ　服部仲子
●牛込區通寺町三九へ　塚原うめ子
●下谷區中根岸三六根岸養生院へ　神尾友修
●牛込區東五軒町四三へ　栗本東明
●小石川區水道町五二へ　仙田花子
●京橋區上槇町九へ　磯部つや子
●京橋區築地三ノ十二へ　山本たま子
●府下豐多摩郡中野町大字中野字園三一二五へ　戸塚てる子

新案特許一〇三六二號

衛生的なる改良かもじ發賣



丸髷 金十五錢より金七十五錢迄

島田髷 金三十錢より金壹圓五十錢迄

銀杏髷 金二十錢より金六十錢迄

送料 各八錢

本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のものゝ如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髪の傳染病を媒介する憂なし

諸かもじ製造販賣

東京市神田區豊島町十七番地

【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹

本郷三丁目 兼康

淺草駒形 百助

淺草駒形 紅勘

神田區須田町 三升屋

日本橋通二丁目 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助

日本橋區田所町廿一 山三商店

同 横山町一丁目 安井治太郎

同 馬喰町三丁目四 新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎

同 横山町一丁目 天野源七

同 馬喰町三丁目 阿部錠

同 橘町四丁目角 島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店

同 横山町二丁目 江川小間物店

同 横山町二丁目 森本支店

外全國到る所の小間物店にあり

タカヂアスターゼ

●**消化不良**に就て熊本醫學專門學校長**谷口博士**は曰く、澱粉不消化の徵候たる胃の脹、大疼痛、溜飲、腸内瓦斯瀦積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗**長與博士**は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、

信ずべき統計に徵すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すされば タカヂアスターゼは此障害に對する最も有力なる藥物なり。

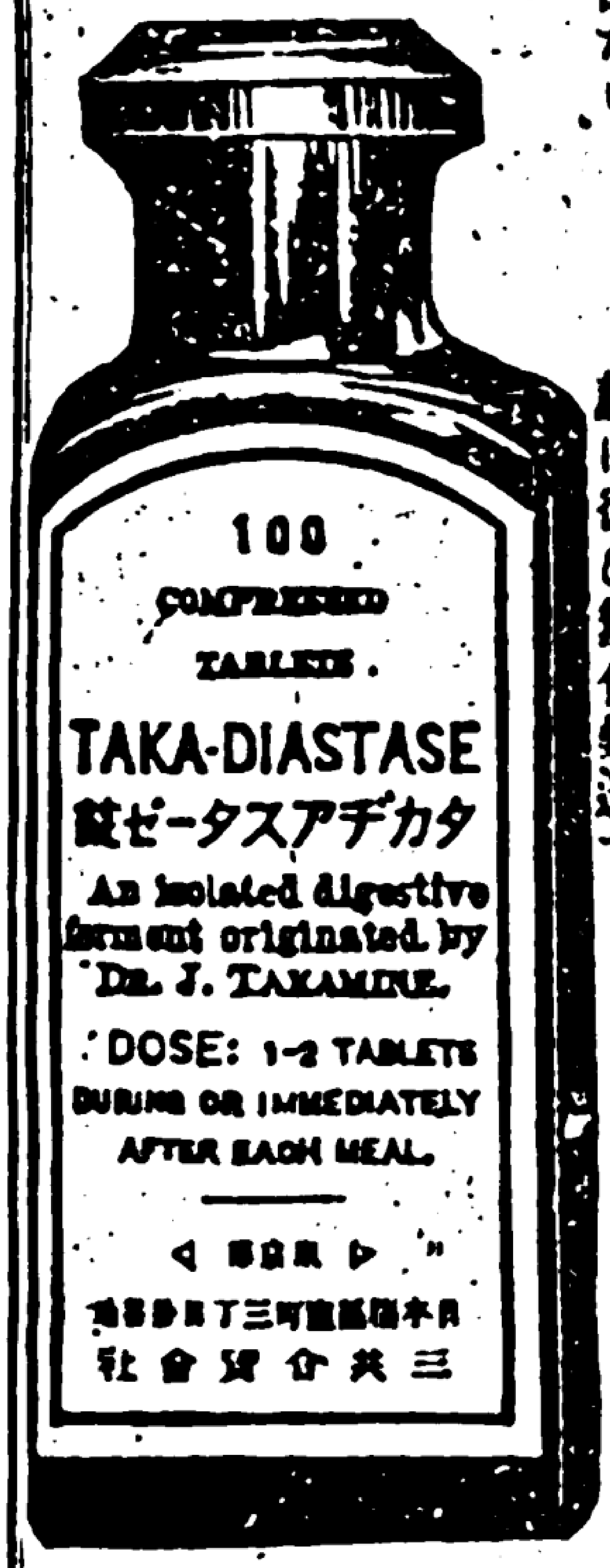
タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

●**消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる**本田博士**の學位論文に徵するに坊間に販かる、多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらざれば之と同效を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**は他**摸造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの說明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●**高峰博士發見**の**タカヂ**アスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舖にて取次販賣す

世に幾多の摸造品及類似品あり



●**營養增進**の目的を以て虚弱者貧血者病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に**肺結核**に患者之を服用すれば其效力著明なりされば、大阪高等醫學校長**佐多博士**は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有效を認めたる所とすと、又在京の**栗本博士**は曰く、今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著效を確認すと、**柴山博士**も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧げたることを公示せられたり

●**藥效均等**論は輓近醫學者間に唱道せらる、所なり、内務省衛生試驗所長**西崎藥學士**の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の效力は固よりグリカーゼの效力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの效力每常一定なるは其特長なりこれパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・一—〇・三瓦錠劑(〇・一三)なれば一錠—二錠每食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ケ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

事務所高崎市寄居町五十番地

高崎支會

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼れて一般慈善事業を爲すにあり ●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢 ●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す ●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす ●第六條　支會には會長一名副會長一名　評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす ●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし ●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す ●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし ●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし ●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす ●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし ●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黑塗箱入送費九錢）六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五四半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　菲司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十三年四月十六日印刷
明治四十三年四月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百四十五號
（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍